

		警察電話	
		戸数	人口
		三〇、二〇〇	一五
		六、五四九	
		今治警察署長	桑原喜太郎
		今治消防組頭	河上鬼勢治
		(備考)	
		○常備消防隊なし	

(149) 宇和島市の火災

種別	大正十一年中	大正十四年中	昭和二年中
火災度數(回)	四九	三四	四
即時消止	四	一三	三
内不延焼	一	一〇	一
延焼	一	一	一
焼失面積(坪)	一、〇二九	一九五	四一
内焼失戸數	八六	一四	二
内焼失棟數	八	一	一
損害見積高(円)	八三、六七	二〇、八六	五、二二〇
内不動産	：	：	：
内動産	：	：	：
火災原因別	：	：	：
煙草吸殻	：	八	三
火鉢	：	一	一
カマ	：	四	一
煙火	：	一	一
行火炬	：	一	一
取炬	：	一	一
蠟燭	：	一	一
燈火	：	一	一
子供の弄火	：	一	一
焚火	：	一	一

(150) 宇和島市の消防設備

種別	大正十二年度	昭和元年度	昭和三年度
消防警備費(円)	四、二九八	五、八三三	五、八一五
内經常部	四、二九八	五、八三三	五、八一五
内臨時部	一	一	一
組員	八九七	九二一	八九八
内部長	一	一	一
内小頭	一九	一九	一九
内消防手	八三三	八三三	八一四
主要機具其他	八三三	八三三	八一四
カソリンポンプ	一	一	一
腕用ポンプ	一七	一七	一七
水車	三三	三三	三三
ホース總延長(尺)	八三三	八三三	八三三
管鉗	四〇	四〇	四〇
火の見櫓	一三	一三	一三
火の利	一	一	一
水道消火栓	一	一	一
水貯池	一	一	一
堀井	一	一	一
道路	一九二八	八〇〇	二二〇

油電放燬其  
類氣火爐他

一三一

三三一

|||||

幅員二間以上  
同六間以上  
通信機關  
一般加入電話  
警察電話  
人口  
宇和島警察署長  
宇和島消防組頭

一四四  
一〇  
四五五  
一四  
三、〇三  
七、二三五  
二、一一二

五七一  
一九  
三、三五  
八、四五六  
二、一一二

中黒  
村田  
惣政  
惣政  
惣政  
惣政  
惣政  
惣政

(備考)  
○常備消防隊なし。

(151) 高知市の火災

種別	大正十四年中	昭和二年中
火災度數(内即時消止)	二四	三三
内延焼	二〇	二六
焼失面積(内焼失棟數)	四二八	一、一三三
内焼失棟數	一〇七	一〇〇
損害見積高(内不動産)	一五、六四四	三八一、四〇四
火災原因別	カマド 一八	カマド 二
カマド	一八	二
煙燻	一	一
煖爐	二	一
行火炬	二	一
火鉢	二	一
コソ	一	二
煙草吸殻	一	二
火消壺	一	一
蠟燭	一	一
燈火	一	一
子供の弄火	二	一

(152) 高知市の消防設備

種別	昭和元年度	昭和三年度
消防警備費(内經常部臨時部)	一五、二五〇	三五、二九四
内臨時部	二〇〇	一〇、二四九
組員	一〇〇	二五、〇四五
内部長	一	一
内小頭	一	一
内消防手	一八五	二九五
主要機具其他	一	一
ポンプ自動車	二	三
水管自動車	一	一
カソリンポンプ	一	一
蒸気ポンプ	一	一
腕用ポンプ	一	一
水筒	一	一
ホース總延長(車)	二二〇	八二〇
管の延長	一五	一三
火の見櫓	一	一
火の梯子	一	一
水道消火栓	三〇〇	四〇五

焚火 油類 瓦斯 電氣 七ルロイフ 放火 其他

一三 | 二一 | 二

四一五 | 一一

堀井 貯水池 道路 幅員二間以上 同六間以上 同十間以上 通信機 一般加入電話 警察電話 火災専用電話 人口 面積 高知警察署長 高知消防組頭

一、五〇〇 三 七〇 七〇 一五 一、三五九 三〇 七〇、八五三 一四、三六一

南 芝 崎 部 博 九〇、三七八 二〇、九〇五 一、九八六 一、九七五 二〇 三〇 四九

(備考) 〇常備消防隊員四名は市吏員待遇にして運轉勤務の主任一名消防手三名なり。 〇此外に私設消防五十二組、組員千八十四名あり、水管は三十臺、腕用ポンプ二十五臺を有す。

(153) 福岡市の火災

種別	大正十四年中	昭和年中
火災即時消止	一九七	
内延焼	一二七	
焼失面積(坪)	四七六	
内焼失戸數	三七	
内焼失棟數	三七	
損害見積高(円)	一五五、二八八	
内不動産	九三、一七三	
内動産	六二、一一五	
火災原因別		
カマド	三	
煙突	一	
煖爐	二	
行火炬	二	
火鉢	二	
取灰	二	
煙草吸殻	一	
燈火	一	
子供の弄火	一	
焚火	一	
放火	一	

(154) 福岡市の消防設備

種別	昭和元年度	昭和年度
消防警備費(円)	二一、一三六	
内經常部	一九、九三六	
内臨時部	一、二〇〇	
組員	六〇三	
内組頭	六	
内小頭	四二	
内消防手	五五五	
主要機具其他		
ポンプ自動車	二	
蒸汽ポンプ	二	
腕用ポンプ	一	
水車	一	
水管	一	
管の見櫛	一	
人口	一一三、五九二	
戸數	二六、〇二七	
福岡警察署長	櫻井敏雄	
福岡消防組頭(東)	大穂俱吉	
同(西)	山本卯之助	
同(南)	木原喜三次	

不審火

二

(参考)

▲大正十二年一月十七日午前五時、市内目抜の東中州より出火、全焼四十六戸、半焼三戸を出して、同八時廿分鎮火、火災保険損害百萬圓なるも實際は數百萬圓。

同(北)  
同(住吉)  
同(旭)

泉榮次郎  
池見辰次郎  
木村太三次

(備考)

○常備消防隊なし。  
○昭和二年度消防警備費豫算は一六、三五二圓なり。

(155) 久留米市の火災

種別	大正十一年中	大正十四年中	昭和二年中
火災度數(回)	二	二九	一八
即時消止	二	一九	一〇
内不延焼	二	八	一
延焼	二	二一	一七
焼失面積(坪)	四二〇	六〇	三七六
内焼失戸數	六	一〇	七
内焼失棟數	六	二	三
損害見積高(圓)	一五、八〇〇	三、六六六	九、九六三
内不動産	一五、八〇〇	二、四六六	九、九六三
内動産	〇	一、二〇〇	〇
傷者	〇	〇	二
火災原因別			
子供の弄火	〇	一	三
煙突	〇	二	一
火鉢	〇	二	一
コソ	〇	一	一
煙草吸殻	〇	一	一
燈火	〇	一	一
焚火	〇	一	一
油類	〇	一	一
電氣	一	二	一

(156) 久留米市の消防設備

種別	大正十二年度	昭和元年度	昭和三年度
消防警備費(圓)	二、天二	三、九六	三、八六
内經常部	九、一五二	一、六六九	一、八〇九
内臨時部	二、四二九	三三〇	一
組員	六五四	八七二	七三二
内組長	一	一	一
内副组长	一	一	一
内消防頭	一	一	一
内消防手	六一九	八二四	六七四
主要機具其他	六二〇	九〇〇	七五〇
腕用ポンプ	一	一五	一五
ホース總延長(回)	六二〇	九〇〇	七五〇
管の見櫛	一	一五	一五
火の見梯子	一	一五	一五
火の見櫛	一	一五	一五
公衆用輕便唧筒	一	一五	一五
水の利	九、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
堀井	〇	〇	〇
貯水池	五	八	一〇
道幅員二間以上	〇	〇	〇
同六間以上	〇	〇	〇

乾燥室  
放火  
カマ  
取灰  
蠟燭  
石燭  
機械  
其  
不  
明

一  
二  
二  
二  
三  
一  
一  
三  
一

二  
一  
一  
一  
一  
一  
二

通信機關  
一般加入電話  
警察電話  
人口  
久留米警察署長  
久留米消防組頭  
積(平方馬)

一、〇七五  
一八  
九、〇四六

二、〇〇二  
一七  
三、〇三三  
一、五四六

一、四〇五  
一、二  
六、五三三  
三、四四  
星先運平  
中野猪之助

(備考)  
○常備消防隊なし。  
○久留米市内樞要の箇所には輕便唧筒を設備し、市民に之が使用訓練を爲さしめ居れり。

(157) 門司市の火災

種別	大正十一年中	大正十四年中
火災度數(回)	六	一九
即時消止	四	三
内不延燒	二	一
延燒	二	一六
燒失面積(坪)	三七	一三
內燒失戶數	二	一
內燒失棟數	二	三
損害見積高(圓)	一〇、一〇五	二五
內不動產	一〇、一〇五	一七六、九〇五
火災原因別	一	五
カマ	一	一
煙草吸殻	一	一
煙草吸殻	一	一
七輪の殘火	一	一
火鉢	一	一
焚火	一	一
放火	一	一
不燒	一	一
不明	一	一

(158) 門司市の消防設備

種別	大正十二年度	昭和元年度
消防警備費(圓)	一八、五八六	三三、七〇三
內經常部	九、〇八六	一五、五三三
內臨時部	九、五〇〇	一七、一七〇
組員	三六二	三九六
內組長	一	一
內頭目	一	一
內頭目	一	一
內頭目	一	一
內頭目	一	一
主要機具其他	三三〇	三六〇
ポンプ自動車	一	一
ガソリンポンプ	一	一
蒸気ポンプ	一	一
水車	一	一
ホース總延長(圓)	一、〇八〇	一、五〇〇
管の櫛	二〇	二五
水の利	七	九
水道消火栓	二七二	二六〇
貯水池	一	一
道幅員二間以上	一四四	一



		通信機關	
		一般加入電話	七七六
		警察電話	五
		人口	三三、五〇〇
		戶數	六、四〇〇
(備考) ○常備消防隊なし。			

### (161) 大牟田市の火災

種別	大正十年中	大正十四年中	昭和二年中
火災度數(回)	三	五	四
即時消止	三	三	六
内延焼	三	二	八
内不延焼	三	二	六
焼失面積(坪)	二六	八八	一〇六
内焼失戸數	二	八	八
内焼失棟數	三	八	八
損害見積高(圓)	六、〇〇〇	四、四六	四、二九八
火災原因別			
焚火	三	二	三
カマ	三	一	一
煙草	一	一	一
取煙	一	一	一
煙草吸殻	一	一	一
燈火	一	一	一
子供の弄火	一	一	一
油類	一	一	一
其他	一	一	一

### (162) 大牟田市の消防設備

種別	大正十一年度	昭和元年度	昭和三年度
消防警備費(圓)	三、八九五	六、七三八	一、二、九二一
組員	二七六	三一九	三八三
内部長	一	一	一
内小頭	五	六	八
内消防手	二六〇	三〇〇	三六〇
主要機具其他	一	一	一
ポンプ自動車	一	一	一
ガソリンポンプ	一	一	一
腕用ポンプ	一	一	一
水筒	一	一	一
ホース總延長(回)	一、五〇〇	一、一九五	一、九六
管の見櫓	一	一	一
火の梯子	一	一	一
水の利	一	一	一
水道消火栓	一五〇	四四二	七五四
堀井	一	一	一
貯水池	一	一	一
道幅員二間以上	一	一	一

同 四間以上	同 六間以上	通 信 機 關	警 察 電 話	人 口	戸 數	大牟田警察署長	大牟田消防組頭
：	：	：	九	六〇、三七二	三、七三三		
五二	一七	：	八	三、五〇〇	三、四九七		
：	：	：	八	突、〇四零	三、九九五	松本 佐吉	田畑 守吉

(備考)  
○常備消防隊なし。  
○近く常備消防隊設置の計画あり。

(163) 八幡市の火災

種 別	大正十年中	大正十四年中	昭和二年中
火災度數(回)	一〇	一九	一六
内 即時消止	九	一八	一四
延 焼	一	一	二
焼失面積(坪)	四〇一	一四四	一八九
内 焼失戸數	二七	八	一八
内 焼失棟數	二五	八	一八
損害見積高(圓)	七、六〇五	一五、八五〇	八、四九八
内 不動産	六六、六〇五	九、二一三	八、四九八
内 動産	一〇、〇〇〇	六、六三七	：
火災原因別	一	一	：
カマド	一	一	：
煙 炬 燵	一	一	：
行 火 炬	二	一	：
火 鉢	一	一	：
取 灰	一	一	：
煙 草 吸 殻	一	一	：
燈 火	一	一	：
マッヂ	一	一	：
子供の弄火	一	一	：
焚 火 類	一	一	：
油 火 類	一	一	：

(164) 八幡市の消防設備

種 別	大正十一年度	昭和元年度	昭和三年度
消防警備費(圓)	二五、二三三	二五、三三三	三三、八〇〇
内 經常部	四、七七二	一八、九八七	：
内 臨時部	一〇、四四〇	六、三三六	：
組 員	五〇二	四七〇	五七四
内 組長	一	一	一
内 頭目	七	八	九
内 小頭	三五	四〇	四五
内 消防手	四五九	四二一	五一九
主要機具其他	：	：	：
ポンプ自動車	一	一	一
ガソリンポンプ	一	一	一
腕用ポンプ	三	一	一
腕用ポンプ	六	一	一
水 管 車	一	一	一
ホース總延長(回)	八三〇	一、二二〇	一、三〇〇
管 鎖	一	一	一
火の見櫓	一	一	一
火の見梯子	八	八	一
水の見櫓	一	一	一
水道消火栓	七四	九七	四三
貯 水 池	七、四八一	六、五六七	五、八
貯 水 池	六	二	一



電氣放  
不其  
氣火他  
明

二 | 四 |

一  
| 二〇 |

一 | 四 |

道 路 (丁)  
 幅員 二間以上 六四六  
 同 六間以上 一〇  
 同 十間以上 三一  
 通信機 關  
 一般加入電話 六二八  
 警察電話 一六  
 人口 一〇、五八  
 戸数 二五、五八  
 面積 (平方里) 一、三〇八  
 八幡警察署長 二五、九六  
 八幡消防組頭 一、四八

(備考)  
 ○常備消防隊なし。  
 ○昭和二年度消防警備費豫算は二二、二八圓なり。

六四六  
一〇  
三一  
六二八  
一六  
一〇、五八  
二五、五八  
一、三〇八  
一、三三三

四八七  
八七  
九三〇  
一九  
二五、九六  
二六、二六  
一、四八

山崎光吉  
工藤茂一郎  
一、〇〇〇  
三、九六  
一、三、五八

(165) 戸畑市の火災

種別	昭和二年中	昭和年中
火災度數(回)	無	無
焼失面積(坪)	無	無
損害見積高(円)	無	無

即ち戸畑市に於ては昭和二年中は無火災なり。

(166) 戸畑市の消防設備

種別	昭和三年度	昭和年度
消防警備費(円)	一〇、〇〇〇	
内 經常部	七、四〇〇	
内 臨時部	二、六〇〇	
組員	一六一	
組長	一	
内 部長	一六	
内 消防手頭	一四一	
主要機具其他	一三	
ポンプ自動車	一	
腕用ポンプ	九〇〇	
ホース總延長(回)	四〇	
管 鎖	五	
火の見櫓	四	
水道消火栓	一、二三〇	
堀井	四三	
貯水池	三五	
道 路 (丁)	三二五	
幅員二間以上	三五	
同 六間以上	二五	

		同十間以上	一九二
通信機	一般加入電話	六〇一	
警察電話	七		
戸人	三六、六五九		
戸面積	八、一九八		
戸畑警察署長	〇・五九		
戸畑消防組頭	大塚三代作		
	大森永八		

(備考)  
○常備消防隊の組織なきも、十二月一日より翌年二月末日まで三ヶ月間、小頭一名消防手八名常備勤務をなす。

(167) 大分市の火災

種別	昭和二年中	昭和年中
火災度數	一〇	
即時消止	三	
内不延焼	六	
延焼	一	
焼失面積	二二四	
内焼失棟數	九	
内焼失戸數	八	
損害見積高	六、五〇〇	
内不動産	四、二〇〇	
内動産	二、三〇〇	
火災原因	一	
煙	三	
カマ	一	
火鉢	一	
火口	一	
火燭	一	
マツ	一	
放火	一	
其他	一	

(168) 大分市の消防設備

種別	昭和三年度	昭和年度
消防警備費	八、六三三	
内臨時部	四、三四四	
内常時部	四、二八九	
組員	五二六	
内消防手	一一一	
内消防頭	五	
主要機具其他	一一三	
ガソリンポンプ	八	
腕用ポンプ	四	
水筒	八	
水管	四	
火の梯子	一〇	
水道消火栓	二八三	
水	一五	
貯水池	一	
通信機	二、二〇〇	
一般加入電話	九	
警察電	四六、五三三	
戸人	九、二八〇	
大分警察署長	河井豊樹	
大分消防組頭	太田信昌	

(備考)  
○常備消防隊なし。

(169) 佐賀市の火災

種別	昭和二年中		昭和年中	種別	昭和三年度		昭和年度
	火災度數(回)	焼失面積(坪)			火災度數(回)	焼失面積(坪)	
火災度數(回)	一六	一六	七	六、四八九			
内 即時消止	一	一	一	五、二六四			
内 不延焼	一五	一五	六	一、二二五			
焼失面積(坪)	三〇、四八五	三七	四四七	四二、九九一			
内 焼失棟數	一	一	一	八、四五			
内 焼失戸數	一	一	一	竹本鹿太郎			
損害見積高(円)	三〇、四八五	一	一	内田清一			
火災原因別							
カマ	一	一	一				
取灰	一	一	一				
子供の弄火	一	一	一				
藥品	一	一	一				
電氣	一	一	一				
不明	一	一	一				

(171) 熊本市の火災

種別	大正十年中		大正十一年中		大正十四年中	種別	大正十一年度		大正十二年度		昭和元年度
	火災度數(回)	焼失面積(坪)	火災度數(回)	焼失面積(坪)			消防警備費(円)	臨時部	臨時部	臨時部	
火災度數(回)	一六	八八六	九	六〇三	六	一三、四三五	一四、〇五〇	三、七六			
内 即時消止	一	五	一	一	一	一三、五二〇	一四、〇五〇	二二、五七六			
内 延焼	一五	八八一	八	六〇二	五	五三〇	一、一三四				
焼失面積(坪)	八八六	六〇三	一、二四四	一、二四四	六	九四九	四〇一	一、一三四			
内 焼失棟數	六九	六三	一四	一四	六	九〇九	三九〇	一、一〇三			
内 焼失戸數	四九	六三	五	五	六	三三	一〇	二九			
損害見積高(円)	二七、六三	二五、九三	五、九六	五、九六	六	九〇九	三九〇	一、一〇三			
内 不動産	八三、八七七	二七、二〇〇	二七、二〇〇	二七、二〇〇	六	三三	一〇	二九			
内 動産	一八、九六	八八、七七三	一八、九六	八八、七七三	六	三三	一〇	二九			
火災原因別					六	三三	一〇	二九			
取灰	三	三	三	三	六	三三	一〇	二九			
放火	四	四	四	四	六	三三	一〇	二九			
子供の弄火	二	二	二	二	六	三三	一〇	二九			
火鉢	二	二	二	二	六	三三	一〇	二九			
煙草吸殻	一	一	一	一	六	三三	一〇	二九			
焚火	一	一	一	一	六	三三	一〇	二九			
燈火	一	一	一	一	六	三三	一〇	二九			
其他	一	一	一	一	六	三三	一〇	二九			
不明	二	二	二	二	六	三三	一〇	二九			

(172) 熊本市の消防設備

種別	大正十一年度		大正十二年度		昭和元年度
	消防警備費(円)	臨時部	臨時部	臨時部	
消防警備費(円)	一三、四三五	一四、〇五〇	三、七六		
内 經常部	一三、四三五	一四、〇五〇	三、七六		
内 臨時部	九四九	四〇一	一、一三四		
組員	九四九	四〇一	一、一三四		
内 組員	九四九	四〇一	一、一三四		
内 臨時部	九四九	四〇一	一、一三四		
主要機具其他	九〇九	三九〇	一、一〇三		
ポンプ自動車	二	一	一		
腕用ポンプ	二	一	一		
水筒	二	一	一		
ホース總延長(尺)	四二〇	二〇〇	五八〇		
管の梯子	二	一	一		
火の見	二	一	一		
水道消火栓	七、一三〇	一〇〇	八五八		
水道消火栓	七、一三〇	一〇〇	八五八		
通信機	一、六九〇	二〇〇	二九		
一般加入電話	一、六九〇	二〇〇	二九		
警察電話	二八	一〇〇	一五八		
警察電話	二八	一〇〇	一五八		

戸数	二、五八	三、〇〇〇	...
面積(平方里)	...	一・五	...
熊本市北警察署長	...	...	上井 傳吉
同 南警察署長	...	...	塚本 又次郎
熊本消防組頭(北)	...	...	城野 健吉
同 (南)	...	...	中島 茂七

(備考)  
 ○常備消防隊なし。  
 ○昭和二年度消防警備費豫算は二三、五二九圓なり。

(173) 宮崎市の火災

種別	昭和二年中	昭和年中
火災度數(回)	四	
内 即時消止	三	
延焼	一	
焼失面積(坪)	三一五	
内 焼失戸數	一三	
内 焼失棟數	一六	
損害見積高(円)	三三、四五〇	
内 不動産	二二、〇五〇	
内 動産	一一、四〇〇	
火災原因別		
カマ	一	
火燭	一	
放火	一	
不消火	一	
不明	一	

(174) 宮崎市の消防設備

種別	昭和三年度	昭和年度
消防警備費(円)	六、二〇〇	
内 經常部	六、二〇〇	
内 臨時部	一、三六六	
組員	三	
組長	二五	
内 消防手頭	一、二五九	
内 消防頭	七九	
主要機具其他	五	
ポンプ自動車	一一	
ガソリンポンプ	一一	
蒸汽ポンプ	一	
腕用ポンプ	二五	
水管車	二四	
ホース總延長(呎)	三、〇七一	
火の見櫓	二	
火の見梯子	二四	
水堀	二	
水貯池	二二	
通信機	二二	
通水機	二三	

一般加入電話	九〇〇
警察電話	一二〇
人口	四五、〇〇〇
戸数	八、五〇〇
面積(平方里)	三・七
宮崎警察署長	崎野榮吉
宮崎消防組頭(中央)	高島嘉右衛門
同(北)	太田原倉藏
同(南)	清水新四郎

(備考)  
 ○常備消防隊なし。  
 ○水利現在の堀井は直徑十二尺、深さ二十尺のものなり。

(175) 鹿兒島市の火災

種別	大正十年中	大正十四年中
火災度數(即時消止)	三七	二九
内延焼	三三	一八
内焼失面積(坪)	四	一一
内焼失戸數	一、七三七	一、四四一
内焼失棟數	一〇八	四六
損害見積高(円)	二二五、八二〇	一三九、七八九
内不動産	四二、二三六	三
内動産	一七三、五八四	三
火災原因別	一六	六
放草吸殻	九	二
煙草吸殻	二	二
煙火突	一	一
燈火	一	一
マッ	一	一
子供の弄火	一	一
カマ	一	一
取灰	一	一
其他	六	一

(176) 鹿兒島市の消防設備

種別	大正十一年度	昭和元年度
消防警備費(円)	四四、八六四	三五、二六二
内臨時部	三	三
内經常部	四四、八六一	三五、二五九
組員	二四六	二四七
内組頭	一	一
内副組頭	一	一
内小組頭	一	一
内消防手	二二一	二二〇
主要機具其他	一	一
ポンプ自動車	一	一
水管自動車	一	一
蒸気ポンプ	一	一
腕用ポンプ	一	一
水筒	一	一
ホース總延長(尺)	四、六八〇	六六二
管見	二二	二〇
火の利	一	一
水道消火栓	四七〇	六八七
貯水池	一七	七


道 幅員 一間以内  
同 幅員 一間以上  
通信 一般加入電話  
警察 電話  
鹿兒島警察署長  
鹿兒島消防組頭

人口	104,845
戸数	19,650
面積	0.9

津島	114,385
中種	13,441
曲	1,088
貞次	
助	2,199
	61,133
	20

(備考)  
○常備消防隊は二十名の常備消防手を以て組織し、隔日勤務す。  
市内に分遣所を設け水管車一臺を備へ、望樓勤務をなす。  
○昭和二年度消防警備豫算は三三、〇七三圓なり。

### (177) 那覇市の火災

種別	大正十四年中	昭和年中
火災度數(回) 延焼	一七三	
焼失面積(坪)	八、四三二	
焼失棟數	一九九	
焼失戸數	六九	
損害見積高(圓)	一、三三、三六	
火災原因別	放火 四 カマ 二 燈火 四 煙燭 二 蠟燭 一 油類 一 電氣 一 乾燥 一 不明	：：：：：：：

### (178) 那覇市の消防設備

種別	昭和元年度	昭和年度
消防警備費(圓)	一一、三二六	
組内臨時部	六、五四六	
組内組員	四、六七〇	
組内部長	二五八	
組内小頭	一七	
組内消防手	二四七	
主要機具其他	二二六	
ポンプ自動車	一	
ガソリンポンプ	一	
腕用ポンプ	一	
ホース總延長(圓)	五三〇	
火の見櫓	一〇	
水管	一〇	
水の利	一〇	
貯水池	一	
人口	五二、〇四八	
戸数	一一、八〇五	
面積(平方里)	〇・二七	
那覇警察署長	岩田真喜	

▲大正八年十月十五日午後十一時辻遊廓より出火、二百餘棟を焼失、翌日午前三時鎮火。  
 ▲大正十四年三月十七日午後七時十分、東町一丁目より出火、四町四方を焼失、同十時鎮火。  
 ▲大正十四年十二月六日午前三時二十分、東町三丁目より出火、百餘戸を焼失、同八時半鎮火、損害百萬圓。

那覇消防組頭 木内梅吉

(備考)  
 ○常備消防隊なし。

(179) 首里市の火災

種別	大正十一年中	大正十四年中
火災度數 即時消止	二	二
内 延焼	一	三
延焼面積(坪)	一五〇	六四
内 焼失棟數	二	九
内 焼失積高(坪)	二	九
損害見積高(坪)	二,〇〇〇	五四六
内 不動産	二	五四六
内 動産	二	五四六
火災原因別	二	二

(180) 首里市の消防設備

種別	大正十二年度	昭和元年度
消防警備費	六〇〇	六二〇
組員	二〇〇	六二
内 部長	一	一
内 頭目	一	一
内 消防手	一七二	五五
主要器具其他	一七二	四二
腕用ポンプ	二	二
ホース總延長(哩)	三〇〇	六〇
火の見梯子	三	三
水利井	七〇〇	一,五七四
水堀	七〇〇	一,五七四
道幅(二間以上)	七〇〇	一〇〇
通信機關	七〇〇	一〇〇
一般加入電話	七〇〇	一〇〇
警察電	七〇〇	一〇〇
戸口數	二,〇〇〇	二〇,四八五
面積	五,五〇〇	四,七九二
首里警察署長	積(系方)	〇・三八

(備考) ○常備消防隊なし。

神山長詳

朝鮮の都市

(181) 京城府の火災

種別	京城府の火災		京城府の消防設備	
	昭和二年年中	昭和三年年中	昭和元年度	昭和三年度
火災度數(包)	二七一	二八六	一五四、七七四	一八五、八八二
即時消止	一八五	一八三	一一五、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
内不延焼	七五	七五	一〇、〇〇〇	一五二、一四〇
延焼	三五	二八	二九、七七四	七、八六〇
焼失面積(包)	二、〇一七	一、八二三	二九、七七四	二五、八八二
内焼失戸數	一九〇	一八四	六、〇四〇	二五、五六七
内焼失棟數	一六九	一五四	二、三三四	三一五
損害見積高(包)	四九七、九六二	三二七、七四一	一、二四四	一、六五五
内不動産	一六九	一五九	一、二四四	一、六五五
内動産	三二八	一六二	一、二四四	一、六五五
死傷者	二	三	一	一
内死傷者	二	三	一	一
内負傷者	二	三	一	一
火災原因別	八〇	九六	二二八	二二九
チンドル	一	二	一	一
煙草吸殻	一	二	一	一
火鉢	一	二	一	一
カマド	一	二	一	一

種別	京城府の火災		京城府の消防設備	
	昭和元年中	昭和二年年中	昭和元年度	昭和三年度
放火	一五	一九	一	一
子供の弄火	一五	一九	一	一
油突類	一〇	一二	一	一
煙燭	一〇	一二	一	一
蠟燭	一〇	一二	一	一
燈火	一〇	一二	一	一
行炬燵	一〇	一二	一	一
乾燥室	一〇	一二	一	一
乾燥	一〇	一二	一	一
電氣爐	一〇	一二	一	一
電氣	一〇	一二	一	一
汽車	一〇	一二	一	一
取灰	一〇	一二	一	一
焚火	一〇	一二	一	一
機械	一〇	一二	一	一
火消	一〇	一二	一	一
瓦葺	一〇	一二	一	一
セルロイド	一〇	一二	一	一
湯殿	一〇	一二	一	一
補火	一〇	一二	一	一
ラソ	一〇	一二	一	一
其他	一〇	一二	一	一
不明	一〇	一二	一	一
出火發見別(包)	一六五	一七二	一七二	一七二
公衆電話	一六五	一七二	一七二	一七二
警備電話	一六五	一七二	一七二	一七二
火の見櫓	四一	三五	三五	三五
消防手	一五	一九	一五	一九
消防車	一五	一九	一五	一九
主要機具其他	一五	一九	一五	一九
ポンプ自動車	一五	一九	一五	一九
水管自動車	一五	一九	一五	一九
ガソリンポンプ	一五	一九	一五	一九
ホースオートバイ	一五	一九	一五	一九
蒸気ポンプ	一五	一九	一五	一九
破環用自動車	一五	一九	一五	一九
救助用梯子	一五	一九	一五	一九
腕用ポンプ	一五	一九	一五	一九
水筒	一五	一九	一五	一九
ホース延長器	一五	一九	一五	一九
管の梯子	一五	一九	一五	一九
火の見櫓	一五	一九	一五	一九
水の利	一五	一九	一五	一九
水道消火栓	一五	一九	一五	一九
堀井	一五	一九	一五	一九
貯水池	一五	一九	一五	一九
道	一五	一九	一五	一九
幅員二間以上	一五	一九	一五	一九
同六間以上	一五	一九	一五	一九
同十間以上	一五	一九	一五	一九
通信機	一五	一九	一五	一九
一般加入電話	一五	一九	一五	一九





燈火  
マツチ  
子供の弄火  
焚火  
油類  
電氣  
汽車  
七輪  
其他  
不明

二 | 二 | 五 | 二 | 二 | 一 | 五

二 | 三 | 一 | 三 | 一 | 一 | 一

欄池  
貯水池  
道  
幅員二間以上  
同六間以上  
同十間以上  
通信機關  
一般加入電話  
警察電話  
人口  
戶數  
面積  
仁川警察署長  
仁川消防組頭

二二〇  
三  
二四四  
七三  
九四八  
四九、五一六  
一一、八三七  
〇・四一二

三〇〇  
三  
九九九  
五二、二六二  
一一、一一六  
〇・四二二  
大石虎太郎  
大林宇三郎

(備考)  
○明治四十三年十月常備消防隊設置。現在の組員九十  
三名の内、三十三名は常備消防手なり。

(185) 大邱府の火災

種別	大正十一年中	大正十四年中	昭和二年中
火災度數(回)	七一	一〇四	一三〇
内 即時消止	一〇	六七	九〇
内 延焼	六一	三七	四〇
焼失面積(坪)	三九三	六六一	一、〇四五
内 焼失戸數	八四	一一八	九〇
内 焼失棟數	九六	九二	九〇
損害見積高(圓)	二〇、二八五	九二、六五二	二六、〇三三
内 不動産	二〇、二八五	九二、六五二	二六、〇三三
内 動産	〇	〇	〇
死傷者數	〇	〇	八
内 死者	〇	〇	一
内 負傷者	〇	〇	七
火災原因別	四三	二八	一六
カマ	四	一	一
煙燻	二	一	二
行火炬	二	一	三
取火鉢	二	一	二
煙草吸殻	一	五	七
火消壺	五	三	七

(186) 大邱府の消防設備

種別	大正十二年度	昭和元年度	昭和三年度
消防警備費(圓)	二八、〇〇〇	二四、五〇〇	三三、〇九三
組員	一五〇	一五二	一五六
内 副組頭	一	一	一
内 部長	一	一	一
内 小頭	四	四	四
内 消防手	一四〇	一四一	一四五
主要機具其他	一	一	二
ポンプ自動車	一	一	一
水管自動車	一	一	一
腕用ポンプ	一	一	一
水管	三	三	三
ホース總延長(圓)	八〇〇	八二〇	一、八〇〇
管の見櫓	一	一	一
火の見梯子	一	一	一
水の利	一	一	一
水道消火栓	一	一	一
掘井	一	一	一
貯水池	一	一	一
通信機	一	一	一

蠟燭 燈火 子供の弄火 焚火 石類 油類 乾燥室 機械擦 放火 風呂場 汽車飛火 其他 不明

蠟燭	二
燈火	一
子供の弄火	一
焚火	一
石類	一
油類	一
乾燥室	一
機械擦	一
放火	一
風呂場	一
汽車飛火	一
其他	一
不明	一

一般加入電話	九四九
警察電話	七二、七九八
戸口	一一、三二一
面積	〇・五七八
大邱警察署長	〇・五七八
大邱消防組頭	〇・五七八
積(系方)	〇・五七八
加藤好晴	八〇、〇七二
松本誠一	一八、五八一

(備考)  
 ○大邱消防組の組織は明治四十年三月一日にして、常備消防隊は大正四年五月十日組織す。現在の常備員は上掲組員中の小頭二、消防手二五、計二十七名なり。

(187) 釜山府の火災

種別	釜十年中	釜十一年中	釜十四年中	昭和二年中
火災度數	二八	六三	六二	六三
即時消止	一	一	二	一
不延焼	一	一	一	一
延焼	一	一	一	一
焼失面積(坪)	七六一	二、三三〇	九〇〇	一、三三四
焼失戸數	二二	七三	九五	一四四
焼失棟數	二〇	七三	八三	一二三
損害見積高(圓)	二六、〇五九	五、四〇二	二〇、九三三	二九、七七一
内 不動産	一五、一六四	三、三三三	一〇、九三三	一四、四一四
内 動産	一一、八九五	二、〇六九	一〇、〇〇〇	一五、三五六
死傷者	一	一	一	一
内 死者	一	一	一	一
内 傷者	一	一	一	一
火災原因別	二五	四四	二二	一八
カマ	一	一	一	一
煙燭	一	一	一	一
行火炬	一	一	一	一
火鉢	一	一	一	一
取口	一	一	一	一
灰	一	一	一	一

(188) 釜山府の消防設備

種別	釜十一年度	釜十二年度	昭和元年度	昭和三年度
消防警備費(圓)	五、三三三	五、三三三	六、八三三	五、九三三
内 臨時部	一、九〇〇	一、九〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇
内 經常部	三、四三三	三、四三三	五、一三三	四、二三三
組長	一	一	一	一
副組長	一	一	一	一
内 小頭	一	一	一	一
内 消防手	一	一	一	一
主要機具其他	一	一	一	一
ポンプ自動車	一	一	一	一
水筒自動車	一	一	一	一
ガソリンポンプ	一	一	一	一
蒸気ポンプ	一	一	一	一
腕用ポンプ	一	一	一	一
水筒	一	一	一	一
ホース總延長(圓)	二、〇五〇	二、〇五〇	二、〇五〇	二、〇五〇
管の延長	一	一	一	一
火の見櫓	一	一	一	一
火の見梯子	一	一	一	一
水の利	一	一	一	一

煙草吸殻	火消燭	蠟燭	燈火	マッ	子供の弄火	焚火	火類	油類	瓦斯	電氣	乾燥機	機械	放火	不審	不審	不審	不審	不審
七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
水道消火栓	貯水池	道	幅員二間以上	同六間以上	同十間以上	通信機	一般加入電話	警察電話	人口	戸数	面積	釜山警察署長	釜山消防組頭					
一八四	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五					
一八四	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五					
二八六	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五					
三四四	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五					

(備考)  
 ○常備消防隊は小頭二、消防手四五、計四十七名を以て組織し、府内七ヶ所の詰所に配置す。  
 ○水陸消防用を兼ねる發動汽船三隻を有す。

(189) 平壤府の火災

火災度數	即時消止	延焼	焼失面積	焼失戸數	焼失棟數	損害見積高	内不動産	死傷者	死傷者	死傷者	火災原因別	カマ	煙燻	煖爐	行火炬	取火鉢	煙草吸殻	燈火	
八六	七三	一三	二、一九六	二二八	二〇四	四三八、五一〇	四三六	一五七、六一九	一〇五、五〇三	五二、一一六	二	一	一	一	一	一	一	一	一
一四三	一二五	一八	七六九	七一	三六	一五七、六一九	一〇五、五〇三	五二、一一六	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

(190) 平壤府の消防設備

消防警備費	内經常部	臨時部	組員	組頭	副組頭	内部長	内小頭	消防手	主要機具其他	ポンプ自動車	水管自動車	腕用ポンプ	水管車	ホース總延長	管の見櫓	火の梯子	水の消火栓	掘井	
二九、八一三	二八、一六三	一、六五〇	一〇一	一	一	一	一	一	九三	四	二	一	一	一、一〇〇	二〇〇	七	二	一	一
四一、八九九	三二、八九九	九、〇〇〇	一〇一	一	一	一	一	一	九三	四	二	一	一	二、〇〇〇	一、〇〇〇	五	二	三	一
私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公	私公
四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三	四六三

子供の弄火 焚火 油類 電氣 機械 放火 温突 同損 同破 同熱 其過 不明

一〇 一一 一三 二二 二二 四九 四四 二四 二二 三

一〇八 一 三 五 四 五 一 一 一 七

貯水池 道 幅員二間以上 同六間以上 同十間以上 通信機 一般加入電話 警察電話 人口 面積 平壤警察署長 平壤消防組頭

七二八 八八 九七 一〇九、二八五 二六、七〇〇 〇、四二二

一六一 一六七 一、四〇六 九四、四八〇 二〇、八四八 一、〇〇三 大佐 橋恒藏 佐藤貞治

(備考) ○常備消防隊は部長以下四十名を以て組織し、二部制に因り隔日勤務、三ヶ所の詰所に配置す。

(191) 元山府の火災

種別	大正十一年中	大正十四年中	昭和二年中
火災度數(回)	二四	二三	二三
即時消止	七	一五	三
内不延焼	一四	七	一〇
延焼	三	一	一
焼失面積(坪)	六〇七	七四二	三五二
内焼失棟數	四二	二二	四三
内焼失戸數	四〇	二二	三五
損害見積高(圓)	八四、四九五	八九、一七八	二〇、二六一
内不動産	：	：	：
内動産	：	：	：
火災原因別	：	：	：
カマ	三	一	二
煙燻	三	一	一
火鉢	四	一	一
火鉢	二	一	一
取火	二	一	一
煙草	三	一	一
蠟燭	二	一	一
燈火	二	一	一
子供の弄火	一	一	一

(192) 元山府の消防設備

種別	大正十二年度	昭和元年度	昭和三年度
消防警備費(圓)	六、八〇八	九、四三七	一六、九六五
内經常部	六、八〇八	五、〇〇二	六、六六五
内臨時部	一	四、四三五	一〇、三〇〇
組員	一一三	一一六	九九
内頭頭	一	一	一
内副頭	一	一	一
内小組頭	一一	一一	一一
内消防手	一〇九	一〇三	九〇
主要機具其他	：	：	：
水管自動車	一	一	一
腕用ポンプ	四	五	七
水管自動車	四	一六	三
運搬自動車	一	一	一
ホース總延長(圓)	一、三〇〇	五四〇	六六五
火の見櫓	一	一	一
火の見梯子	二	二	二
水道消火栓	一	三	一
水堀	一	一	一
貯水池	一	一	一
道路	一	一	一

焚火 放火 汽車飛火 其ノドル 不其明

二 | | | 四一

一 一 五 四 | 三

五 七 | | | 一

同	元山消防組頭	元山警察署長	面戸人	積(平方)數	警察電話	一般加入電話	通信機關	同十間以上	同六間以上	幅員二間以上
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

(備考)  
 ○常備消防隊は消防手運轉手共五名を以て組織し、警察署構内に在る消防見張所に詰り、火災出場の外、消火栓の巡視及火事見張に服務す。

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

### 臺灣の都市

#### (193) 臺北市の火災

種別	大正十四年中	昭和二年中
火災度數(回)	四四	四八
即時消止	二八	四〇
内不延燒	一六	五三
延燒	一〇	一五
燒失面積(坪)	一、一〇三	四五一
內燒失戶數	四〇	九
內燒失棟數	二八	八
損害見積高(圓)	四九、六五七	二六、九八五
內不動產	：	：
內動產	：	：
火災原因別	七	二
煙突	一	一
電氣	五	三
煙草吸殻	四	一
子供の弄火	四	四
乾燥	四	二
フン	三	二
線香	二	一

#### (194) 臺北市の消防設備

種別	昭和元年度	昭和三年度
消防警備費(圓)	三六、四三七	三七、一七二
內經常部	三六、四三七	三七、一七二
內臨時部	一〇七	一〇八
組員	一〇七	一〇八
內組長	一	一
內副組長	三	三
內小組長	三	三
內消防手	一〇〇	一〇一
主要機具其他	：	：
ポンプ自動車	二	二
ポンプ自動車	一	一
蒸気ポンプ	一	一
腕用ポンプ	三	三
水筒	三	三
ホース總延長(圓)	一、九四八	二、一〇〇
管	一八	一六
火の見櫓	七	四
火の見梯子	七	四
水	：	：



同六間以上	五〇
通信機關	
一般加入電話	九三六
警察電話	一
戶人口	六六、六五八
基隆警察署長	岩田 此一
基隆消防組頭	佐々木 關太郎

(備考)  
○常備消防隊なきも、常時夜警員六名を特設しあり。  
近く常備制設置の氣運にあり。

(197) 臺中市の火災

種別	昭和二年中	昭和	年中
火災度數(内即時消止)	三〇		
延焼	二五		
焼失面積(内焼失棟數)	九一		
内焼失棟數	八		
損害見積高(内不動產)	一〇、八一六		
火災原因別	蠟燭 五		
マツチ	四		
カマツ	二		
煙	二		
子供の弄火	二		
火消壺	一		
電氣	一		
機械摩擦	一		
其他	二		

(198) 臺中市の消防設備

種別	昭和三年度	昭和	年度
消防警備費	八、〇九〇		
組員	四二		
組長	一		
副組長	一		
内消防頭	四		
消防手	三六		
主要機具其他	一		
ポンプ自動車	一		
腕用ポンプ	三		
水筒	二		
火の見櫓	二		
火の梯子	一		
人口	四五、〇四四		
戸數	一〇、三六一		
面積(平方尺)	一、三三四		
臺中警察署長	西村 吾六		
臺中消防組頭	秋元 萬次郎		

(備考)  
○常備消防隊は消防手三、運轉手一、計四名を以て組織す。



(199) 臺南市の火災

種別	大正十四年中	昭和年中	種別	昭和元年度	昭和年度
火災度數(内即時消止)	一二		消防警備費(内經常部)	一六、九〇〇	
延焼	一〇		内臨時部	一三、九〇〇	
焼失面積(内焼失棟數)	一九〇		組員	三、〇〇〇	
内焼失戸數	一〇		副组长	七八	
内焼失棟數	一四		副组长	二	
損害見積高(内不動産)	四三、七一〇		消防手	七〇	
内不動産	一一、一三〇		主要機具其他	一	
火災原因別	三一、五八〇		ホンパ自動車	一	
カマド	四		ガソリンボンパ	一	
煙草吸殻	二		腕用ボンパ	四	
火鉢	一		水管車	六	
マツチ	一		ホース總延長(回)	八六〇	
爆竹	一		管の見櫛	二	
不明	三		火の見梯子	九	
			水道消火栓	一三六	
			掘井	一一	

(200) 臺南市の消防設備

貯水池	道路(幅員二間以上)	同(幅員六間以上)	同(幅員十間以上)	通信機關	一般加入電話	警察電話	人口	戸數	面積(平方尺)	臺南警察署長	臺南消防組頭
二	三〇八	二二一	四八	一、六一一	一一二	八三、七五八	二二、一四七	三、七六	住吉秀松		

(備考)  
 ○常備消防隊は自動車の運轉、放水並に消防術數等一ケ年間専門的に教養したる者六名を以て組織、三人宛隔日勤務をなす。

(201) 高雄市の火災

種別	昭和二年中	昭和年中	種別	昭和三年度	昭和年度
火災度數(回)	二六		消防警備費(回)	一五、〇三三	
内 即時消止	二四		内 經常部	一四、二八二	
延焼	二		内 臨時部	七五〇	
焼失面積(坪)	一三一		組員	六九	
内 焼失戸數	一一		組長	一	
内 焼失棟數	一一		副组长	一	
損害見積高(回)	八、一九六		内 消防手	六三	
内 不動產	四、四三二		主要機具其他	一	
内 動產	三、七六四		ボンブ自動車	一	
負傷者	一		腕用ボンブ	一	
火災原因別			水汽ボンブ	一	
煙草吸殻	六		ホース總延長(回)	八〇〇	
煙突	四		水管車	八	
マッ	三		火の見櫓	一	
油類	三		水道消火栓	一五五	
放火	三		堀井	三	
取灰	二		貯水池	四	
子供の弄火	一		道路(回)		
焚火	一				
其他	一				

(202) 高雄市の消防設備

種別	昭和二年中	昭和年中	種別	昭和三年度	昭和年度
不明	一		幅員 二間以上	一、二六七	
			同 十間以上	六九九	
			通信機關	七六三	
			一般加入電話	二七	
			警察電話	五〇、三五一	
			人口	一一、三三〇	
			戸數	三、一一一	
			面積(平方里)	三〇、三五一	
			高雄警察署長	植田末然	
			高雄消防組長	東本定補	

(備考)  
 ○常備消防隊は上掲組員中の消防手五名を以て組織し、  
 内一名は監督の地位にあり。

樺太の都市

(203) 豊原町の火災

種別	昭和二年中	昭和年中
火災度數(①)	一五	
即時消止	三	
内不延焼	一一	
延焼	一	
焼失面積(②)	六二八	
内焼失戸數	二二	
内焼失棟數	二四	
損害見積高(③)	七七、一〇五	
内不動産	五二、四〇六	
内動産	二四、六九九	
負傷者	二	
火災原因別		
煙燭	八	
蠟燭	二	
ストーブ	二	
カマド	一	
油類	一	
電氣	一	

(204) 豊原町の消防設備

種別	昭和三年度	昭和年度
消防警備費(④)	二九、七二七	
内經常部	二一、二二七	
内臨時部	八、五〇〇	
組員	三〇六	
内組員	一	
内小頭	九	
内消防手	二七四	
主要機具其他	一	
水管自動車	一	
ガソリンポンプ	二	
腕用ポンプ	一〇	
水管車	一五	
ホース總延長(⑤)	一、二〇〇	
管の見櫛	二二	
火の梯子	四	
水の利	八	

水道消火栓	一二五
貯水池	二
通信機關	六八〇
一般加入電話	二
警察電話	二
人口	二二、〇九三
戸數	四、八六三
面積(平方里)	〇・四二
豊原警察署長	遠藤彦悦
豊原消防組頭	高橋彌太郎

(備考)  
 ○常備消防隊は小頭一、消防手八、計九名を以て組織し、小頭は日勤、消防手は四名宛隔日勤務有給とす。

(205) 大泊町の火災		種別	大正十一年中	昭和年中
火災度數(回)	一六			
内 即時消止	一三			
延焼	三			
焼失面積(坪)	一四、〇九九			
損害見積高(圓)	四二、三一一五			
火災原因別				
煙カマ	一			
行火炬	一			
放火	二			
蠟燭	三			
不明	四			

(206) 大泊町の消防設備		種別	大正十二年度	昭和年度
消防警備費(圓)	三〇、七八一			
組長	一六三			
内 部長	一			
消防手	一五〇			
主要機具其他	八四			
ポンプ自動車	一			
蒸気ポンプ	二			
ガソリンポンプ	一			
腕用ポンプ	一			
火の見櫓	四			
火の見梯子	一			
水利池	一			
貯水池	一			
人	一四、一〇八			
戸數	二、九一六			

(備考)  
○常備消防隊なし。

關東洲の都市

(207) 大連市の火災

(207) 大連市の火災		種別	大正十四年中	昭和年中
火災度數(回)	一四七			
内 即時消止	七一			
延焼	七六			
焼失面積(坪)	一一、〇五〇			
内 焼失戸數	一六八			
内 焼失棟數	八四			
損害見積高(圓)	二七二、四八九			
内 不動産	一一二、一一九			
内 動産	一六〇、三七〇			
火災原因別				
煙草吸殻	二六			
煙草突	二四			
カマ	一四			
焚火	九			
油火	七			
放火	七			
電氣	六			
暖爐	六			
不明	六			

(208) 大連市の消防設備		種別	昭和元年度	昭和年度
消防警備費(圓)	七五、〇三七			
内 經常部	七五、〇三七			
内 臨時部	一			
組長	一三〇			
内 部長	一			
消防手	一二六			
主要機具其他	三			
ポンプ自動車	三			
水管自動車	一			
梯子自動車	一			
蒸汽ポンプ	一			
水搬自動車	一			
運搬自動車	一			
司令自動車	一			
ホース總延長(圓)	二四、五			
管の見櫓	二四			
火の見櫓	五			

マツチ  
ナンドル  
蠟燭  
子供の弄火  
燈火  
機械  
其  
不

一五  
二二  
一一  
四四  
五五  
六六

水道消火栓  
私設  
六〇九  
三七五  
五六二  
四  
貯水池  
道  
幅員二間以上  
同六間以上  
同十間以上  
通信機關  
一般加入電話  
警察電話  
人口  
戸數  
面積(平方里)

大連警察署長  
水野柳治  
伊東忠次郎  
一九七、九七二  
三、七、四八七  
二、五〇

○常備消防隊は上掲組員中七十六名の専務員を以て組織し、消防屯所三ヶ所に配置す。本市には別に南滿洲鐵道株式會社の組織に係る滿鐵消防隊あり、常備隊員五十四名にしてポンプ自動車二、水管自動車二、乘用自動車二、を有し、市内の火災に對し應援出動す。

# 廣告に就て

新聞と廣告とは相當に古い關係を有するものであつて、西曆一五八八年——即ち今より三百四十年前に、英國のパアレイ卿の計劃した、不定期刊行の政府御用新聞に、書籍の廣告が掲載されてゐた。之れが新聞廣告の嚆矢だといふことである。「汝の營業を廣告せざる場合に、汝が他人よりも廉價にして價値ある物品を販賣することを、誰が知り得べき」とはパンダー、ビルトの言であるが、讀者にとつても亦廣告は一種の記事なのである。

然るに世間には、此の新聞廣告の効果を知り、之を悪用して詐偽的廣告を出し、地方人を瞞着せんとする不徳漢も少くない。が之れは決して我が國の産物のみではなく、諸外國に於ても御同様なのである。たゞ歐米の有力なる新聞は、其の愛讀者に迷惑を及ぼさざらん事を期するに共に、新聞自體の信用を保持せんが爲め、己が新聞に掲載する廣告に就ては、記事と同様に、其の責に任ずるのである。それが爲めには、記事と同様に、矢張り廣告に就ても、廣告主の人格や信用程度、廣告する商品等に關し、豫め調査の上、其の申込を受けるのである。

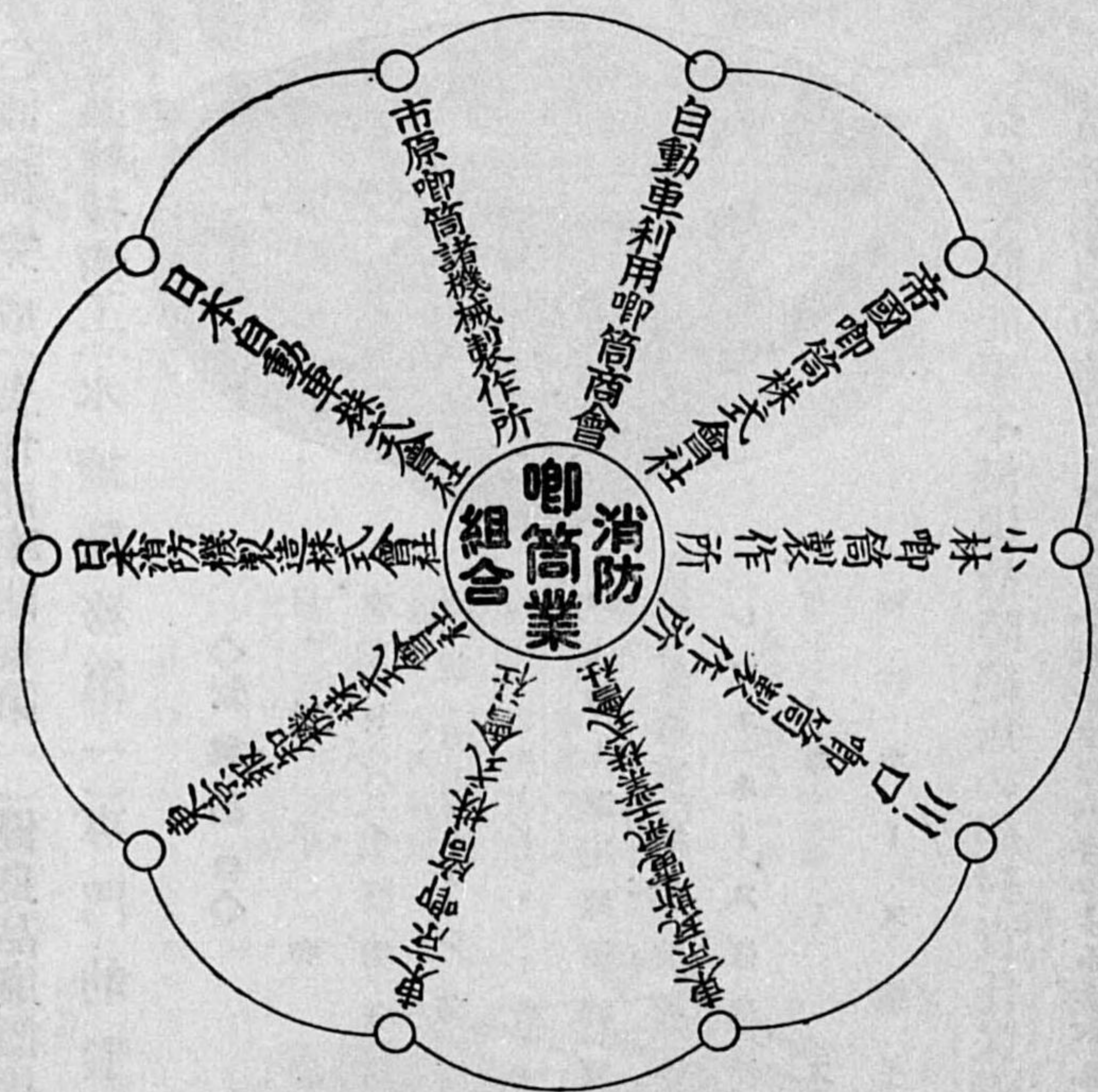
處が、我國の諸新聞は未だ此の程度に進んでゐない。某日刊新聞が近年來、記事審査部なるものを設けて、記事に對する責任を明かにせんと試みて居るが、廣告に就ては有力なる諸新聞悉くが舊來の陋習を脱し得ず、昨日の新聞には某藥品の一頁廣告を掲載して居るかと思れば、今日の紙面には其の廣告主の惡徳非行を社會記事として滿載するの矛盾を敢行し廣告は廣告、記事は記事、兩者は恰も別問題であるかの如く平然として居る。廣告利用の惡漢が社會に跋扈跳梁する禍因は、蓋し茲に存するのであつて、如何に官憲が此種の惡漢を勦滅せんとしても、各新聞社が此點につき反省斷行する處なくんば、到底其の効果は擧げ得るものではない。

日本消防新聞社は、此點につき深く感ずる所あり、微力ではあるが、創刊以來過去十有三年間、毎號の紙上に「本誌は主義として詐偽的不正の悪廣告は之を拒絶し絶對に掲載せず」との聲明を記録すると共に、廣告主の信用并に商品等は常に之を調査し、愛讀者に迷惑となるべき處れあるものは、斷乎として之を拒絶し、叙上の聲明を現實に強行して來た。蓋し此の抱負と此の實行とは、他の同業者に對して、本社の聊か誇りとする所である。

而して此に掲載する消防機械器具の廣告主は、何れも多年の「日本消防新聞」愛讀者であり、廣告主であつて、若し「日本消防機具沿革史」でも上梓されるれば、必ず其の一頁を飾るべき會社であり商店である。御大典記念に本書を編纂した本社の微衷を冀贊され、進んで之が登載の申込を受けたことは、洵に望外の福徳であつた。茲に謹で謝意を表する。

(廣告掲載は抽籤順)

奉祝御即位大禮



「器其利先者功成欲」曰語

は命用御の筒唧るな秀優  
ふ乞を定指御へ員合組當るな實確

東京

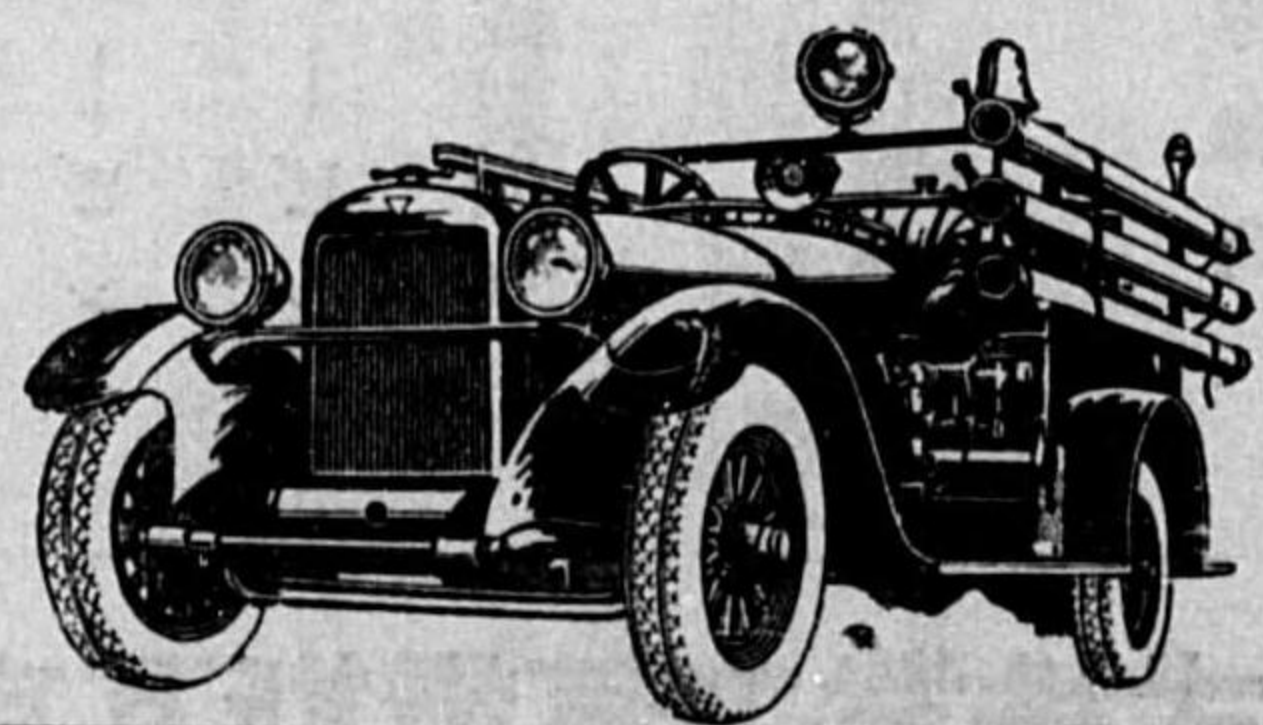
消防 唧筒業 組合

# 筒唧防消式ニター 機知報災火式MM



MM式火災報知機  
御採用先其の一例

宮城各御殿を始め  
東京全市街施設  
京都全市街施設  
横濱全市街施設  
名古屋全市街施設  
函館全市街施設  
若松全市街施設  
足利全市街施設  
其他三千四百餘臺



我がノーザン式唧筒は  
品質精良  
放水量偉大  
取扱簡單

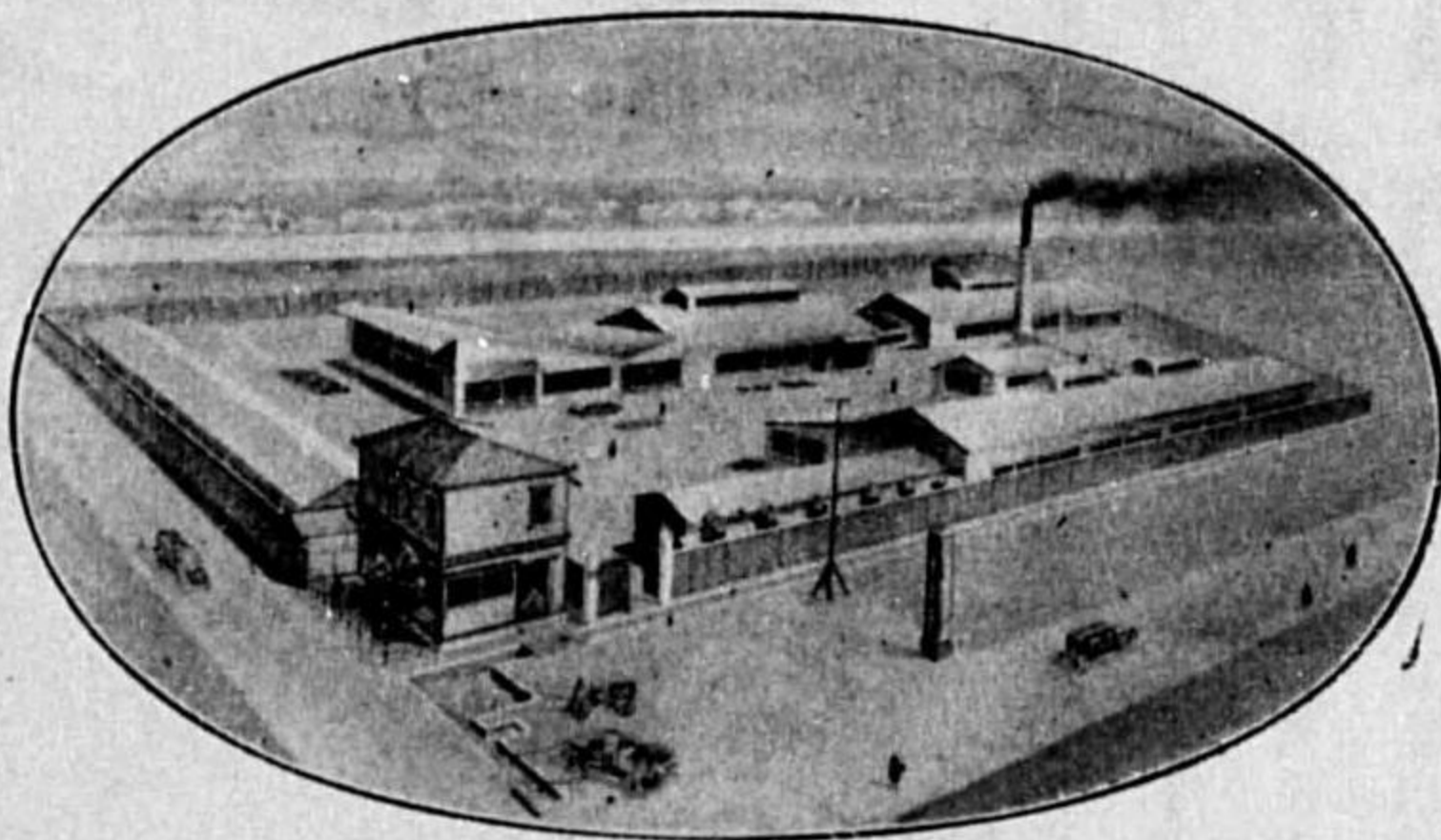
優秀なる技術  
斯界の高級品として  
權威を得て居ります

社會式株機知報京東

電話 芝 町宕愛京東  
二二三  
八八八  
一三三

力タログ  
贈呈

THE NIDON SHOBOKI. K.



○設備完成(製作能率關東第一)優良品廉價提供!  
○熟練技術工(永續勤務第一)専門的製作!

◇營業品目◇

自動車唧筒  
オートバイ應用唧筒  
手輓ガソリン唧筒  
タービン・ロータリー  
ローラー應用腕用唧筒  
特許高壓無藥消火器  
「レゼネ」ホース修理器  
布ホース  
特許ホース接手

○拾ケ年間能率不減退故障絶無の絶対責任保證附!  
○當社独自の誇……タービンポンプはバキューム並バルブ共自動的なり!

社會式株造製機防消本日

(ルビ行銀中山京東)町馬傳南橋京京東

(番三九四(56)橋京話電)

(番八話電)町沼鹿縣木栃

# 威權の界筒唧 筒唧防消一イーヂーテ

水利の範圍廣きタービンポンプ  
取扱簡易なる自動吸水式タービン  
耐久力大なる一段バランス式タービン  
現代工業技術のなし得る最高級製作品  
輕快にして放水力偉大なる

テーチーイー・チャンドラー消防唧筒自動車

小型輕量として驚異的放水量の

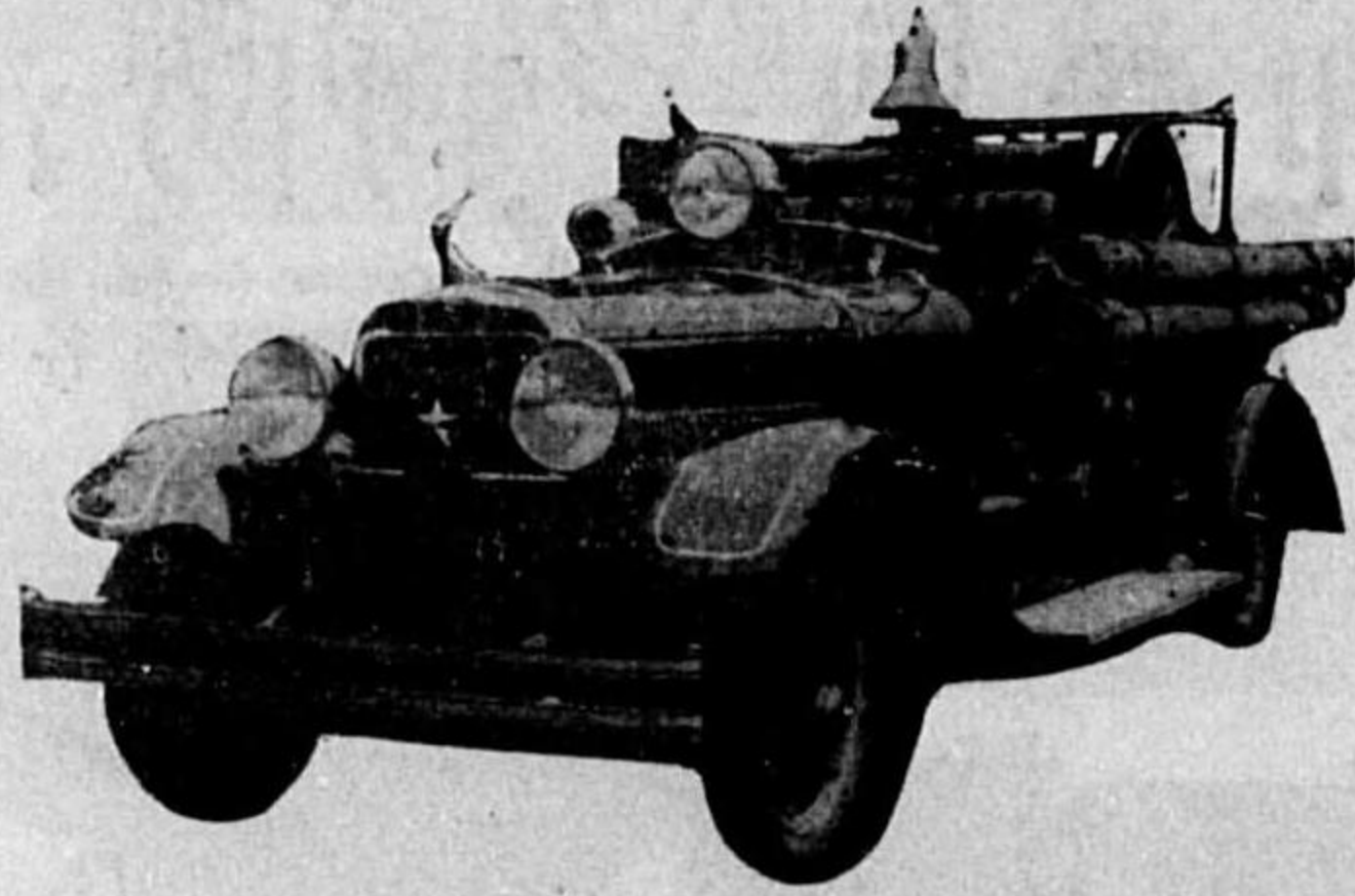
テーチーイー・手挽瓦斯倫消防唧筒

全消防界の信頼に値する唯一の消防唧筒

## 社會式株業工氣電斯瓦京東 所業營門之虎

二六一六・一六一六・〇六一六座銀話電 目丁二町幸内區町麴市京東

# ハドスンニツポンポン自動車



車動自筒唧ンボツニンスドハ

機關は超六氣筒、(米國專賣特許)  
唧筒は日本專賣特許ロータリギアー式  
放水量は壹分間四百五十瓦倫以上  
真空示度は二十五吋以上

東京市赤坂區溜池町三〇番地

## 日本自動車株式會社

支店  
大阪市北區曾根崎、京都市四條通繩手  
名古屋市上堀川町、福岡市東仲洲町  
仙臺市南町、京城府黃金町  
廣島市京橋筋、新潟市上大川前通六番町  
北海道札幌市南一條西五丁目

佛國ルノー二輪車タービン式手挽ガソリンポンプ  
獨國マギルス二輪車タービン式手挽ガソリンポンプ

# 佛國ルノータービン式ポンプ自動車

(カタログ呈上)



# スーホ布



印 鷹



印 鷹



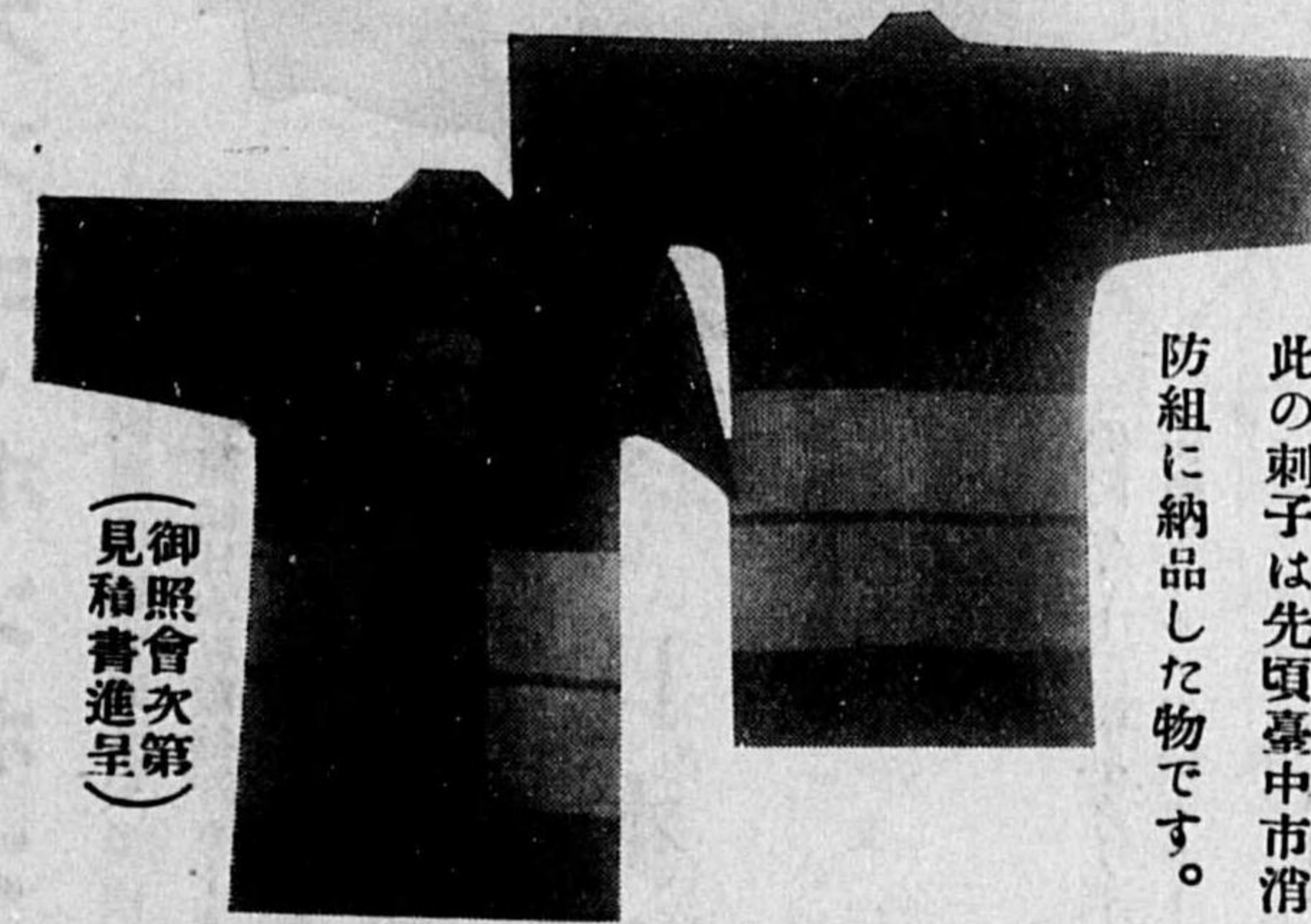
印 龍金

- 關西代理店 大坂市西區梅本町五番地 合資 **ハンデン** 商店 電話西四〇七・二四〇八・三九二二
- 關西代理店 大坂市西區立賣堀北通六丁目 合資 **杉本** 商店 電話新町九七五・一四二三
- 關東代理店 東京市京橋區東港町一丁目 株式會社 **大村五左衛門** 商店 電話京橋四八八・八二四・八二五
- 北海道代理店 札幌市停車場通 **越山** 商會 電話二三五・三七五
- 朝鮮代理店 京城府本町二丁目 株式會社 **熊平** 商店 電話六二四・三一五
- 滿洲代理店 大連市山縣通一三七 **近商** 組 電話一四四三・三二七
- 臺灣代理店 臺南市清水町二丁目 **林洋** 行 電話六六二

東京内ノ 大正製麻株式會社 電話九ノ内 一六二六 一六二七 一六二八 一六二九 一六三〇 一六三一 一六三二 一六三三 一六三四 一六三五 一六三六 一六三七 一六三八 一六三九 一六四〇 一六四一 一六四二 一六四三 一六四四 一六四五 一六四六 一六四七 一六四八 一六四九 一六五〇 一六五一 一六五二 一六五三 一六五四 一六五五 一六五六 一六五七 一六五八 一六五九 一六六〇 一六六一 一六六二 一六六三 一六六四 一六六五 一六六六 一六六七 一六六八 一六六九 一六七〇 一六七一 一六七二 一六七三 一六七四 一六七五 一六七六 一六七七 一六七八 一六七九 一六八〇 一六八一 一六八二 一六八三 一六八四 一六八五 一六八六 一六八七 一六八八 一六八九 一六九〇 一六九一 一六九二 一六九三 一六九四 一六九五 一六九六 一六九七 一六九八 一六九九 一七〇〇

## 消防刺子製卸

各府縣警察保安課消防組御用



此の刺子は先頃臺中市消防組に納品した物です。

(御照會次第見稍書進呈)

消防戰團服は、何と云つても刺子界一です。

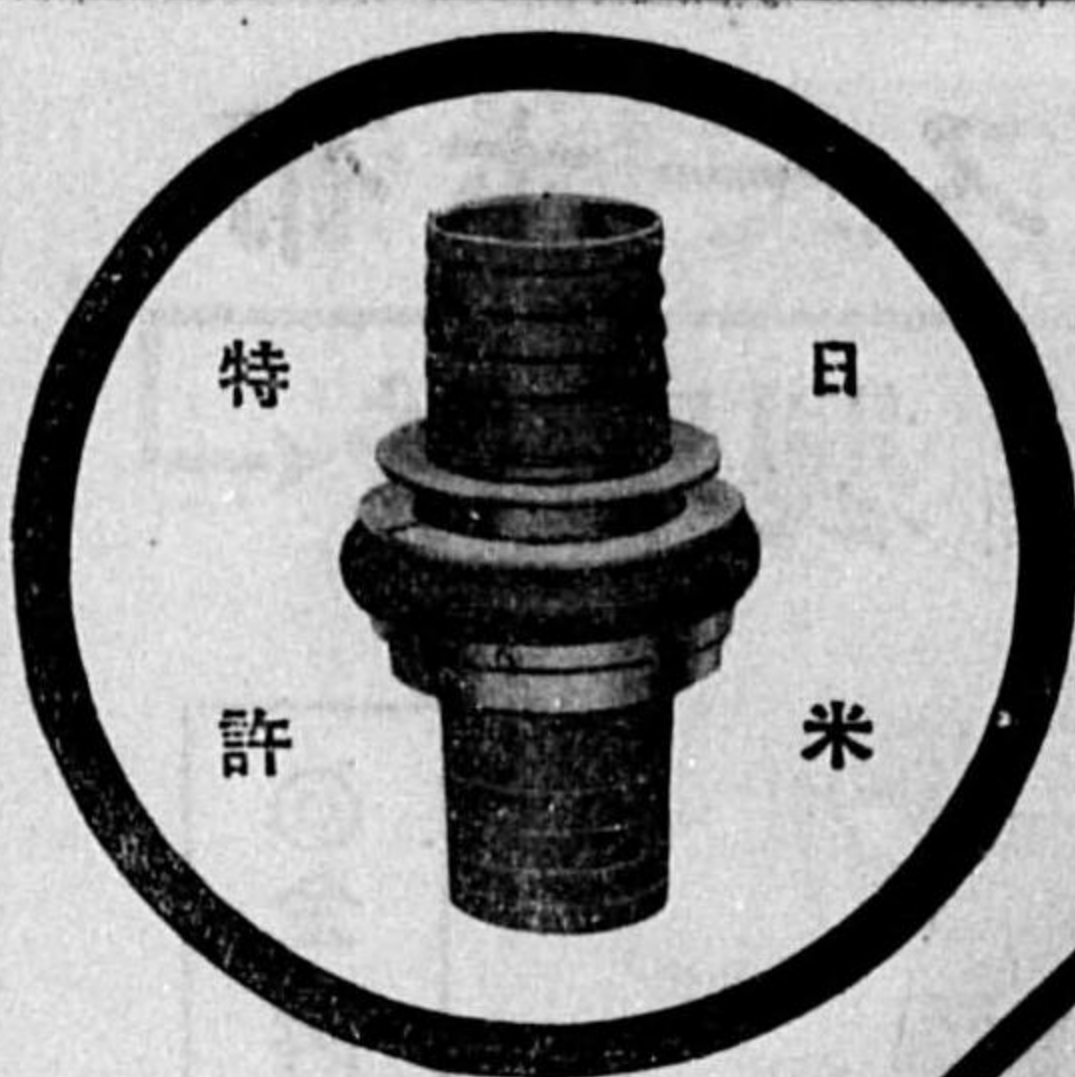
強く。安く。耐久的。

その消防刺子は、何と云つても限りに限り。

## 美山刺子製所

東京府荏原郡松村原停留場前

振替口座東京一六二八三番



(型録進呈)

# 日米特許 町野式水接管手

## 迅速は消防の生命なり

而して町野式水接管手は消防  
作業を最も迅速ならしむる  
水管接手なり

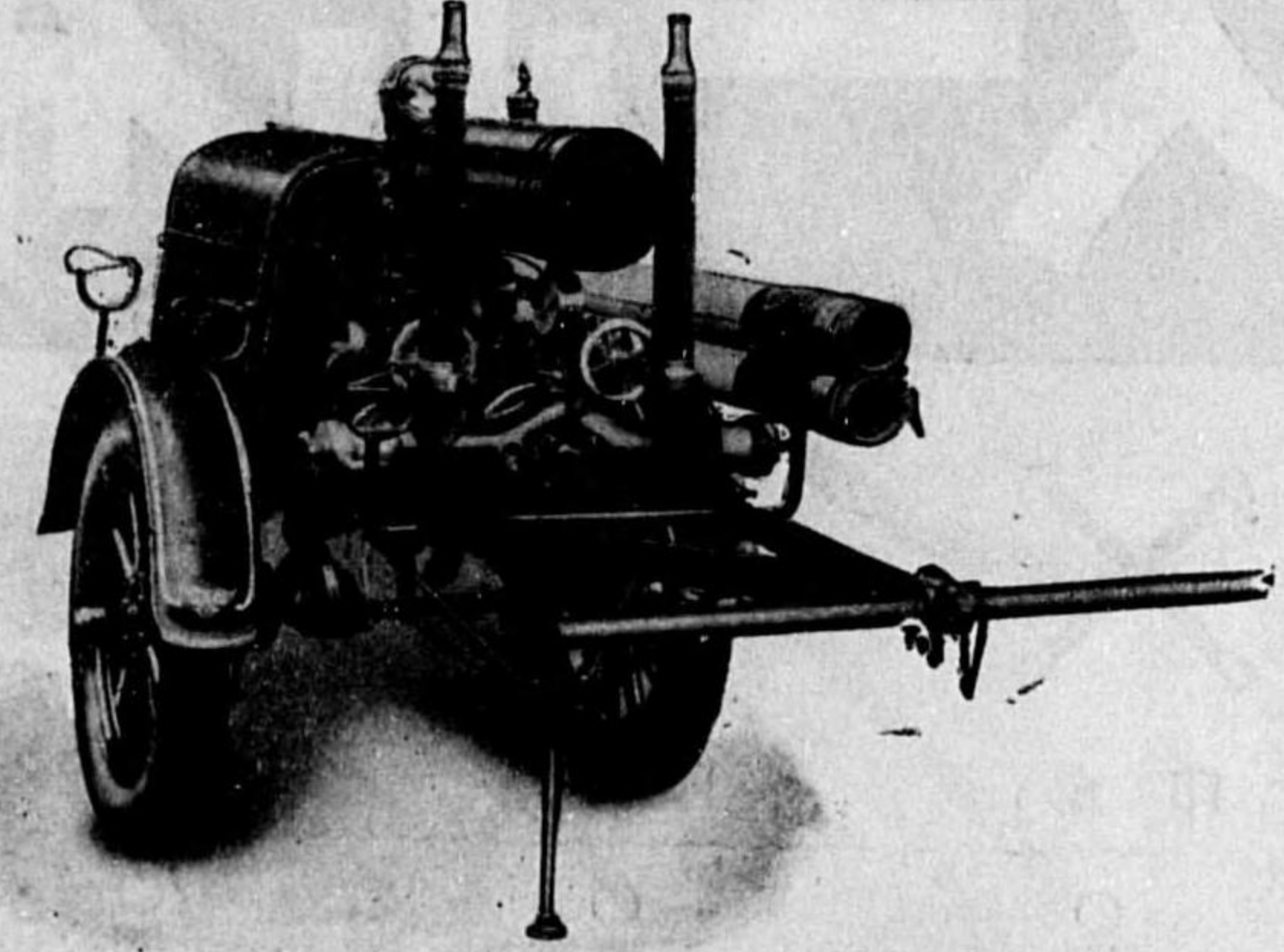
故に消防には絶対に町野式  
接手が必要なり

製作發賣元

### 株式會社 三ヨニト商會

東京市橋區壘町八番地(片倉ル内)  
電話東京(56)番一六一三 番一六一三  
營業所 大阪・名古屋・福岡・仙臺

## 帝國式消防ポンプ



(小型二輪車ガソリンポンプ)

### 營業科目

- 一、消防用自動車唧筒
- 一、消防兼用撒水自動車
- 一、消防用手輓ガソリン唧筒
- 一、消防用ハンド唧筒
- 一、消防用機械器具一式
- 一、布ホース各種

## 帝國唧筒株式會社

本社 東京市神田區和泉町一番地  
工場  
電話 下谷 六六五四番

# 布ホースの權威

帝麻製 ← 特許商標 丸耳織入 限に



◎金牌印 ◎錨印 ◎地球印

帝國製麻株式會社  
特約販賣店

營業品目  
布ホース  
非常袋  
天幕  
卸商

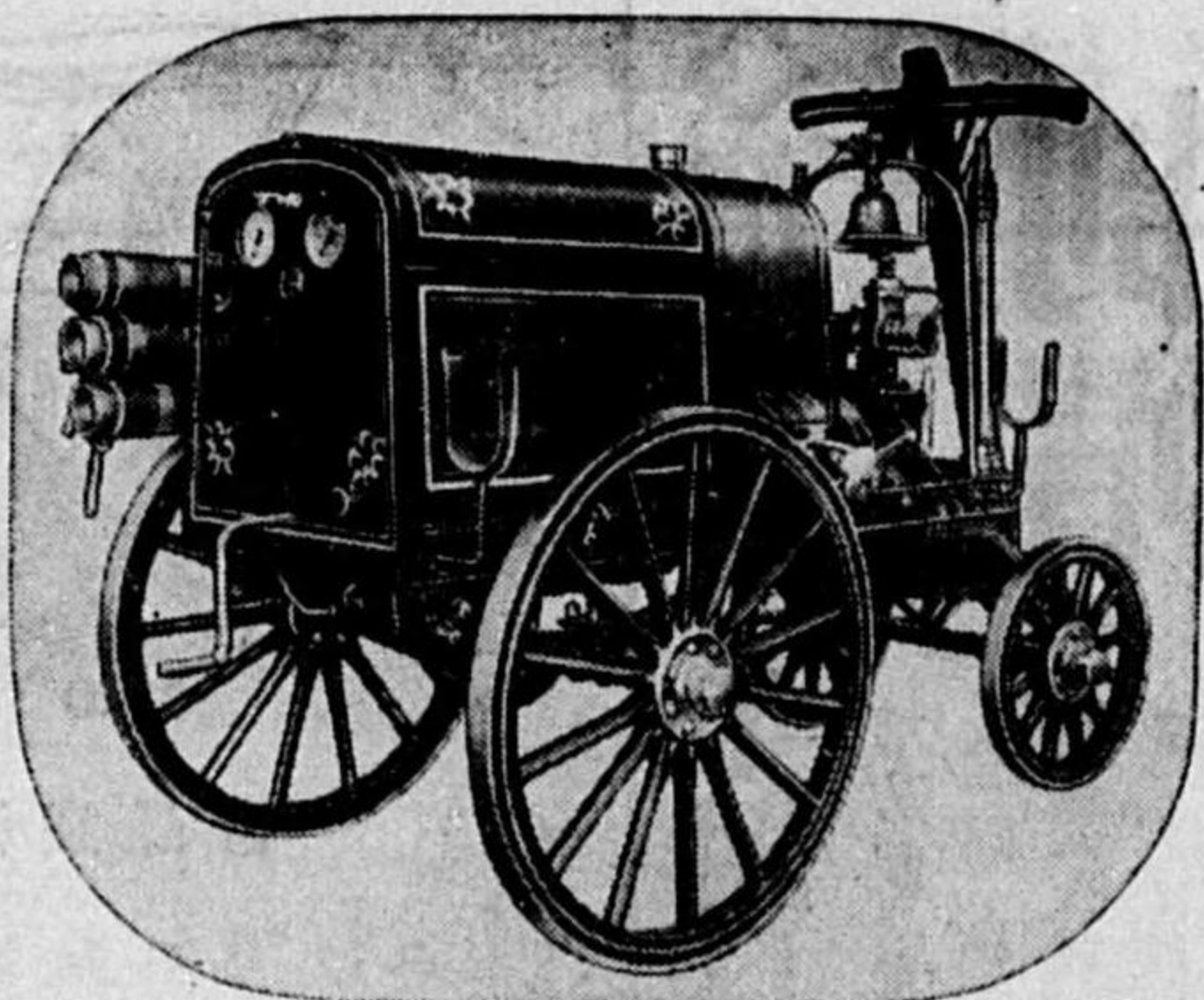
相場表型錄進呈

## 合資會社 高島屋商店

東京市橋區木挽一丁目

電話 東京橋 (56) 一〇二五・一八三九  
振替 東京四一六八番  
發電略號 (タ) 又 (カタ)

(長タービン式ガソリンポンプ)



(御申込次第カタログ進呈)

東京市神田區旅籠町壹丁目(旅籠町停留場前)

# 東京唧筒株式會社

電話 下谷園 四七九一

本社工場 東京市本所區長崎町三番地

分工場 東京市本所區長崎町十九番地



◇東京で一番勉強して居る安い店は鈴木商店！

旗入指揮刀、薙剣  
手斧、モール、前  
章制帽子、胸章、  
制服作業衣、金銀

各消防隊青年團御用  
諸官省制定品製造販賣



鈴木兼衛商店

東京市芝區愛宕下町二丁目四番地  
工場 同 芝區愛宕下町四丁目東一番地

◇附屬品は鈴木に限ることは皆様の御定評です！

◇消防組青年團員服裝品一切製造販賣

消防團、青年團

諸官衛、消防御用達 (御一報次第カタロケ進呈)

制帽

上一圓十錢  
中 八十錢  
並 六十錢  
各種 ヘルメット帽子  
各種 肩章 腕章  
金銀モール及前章



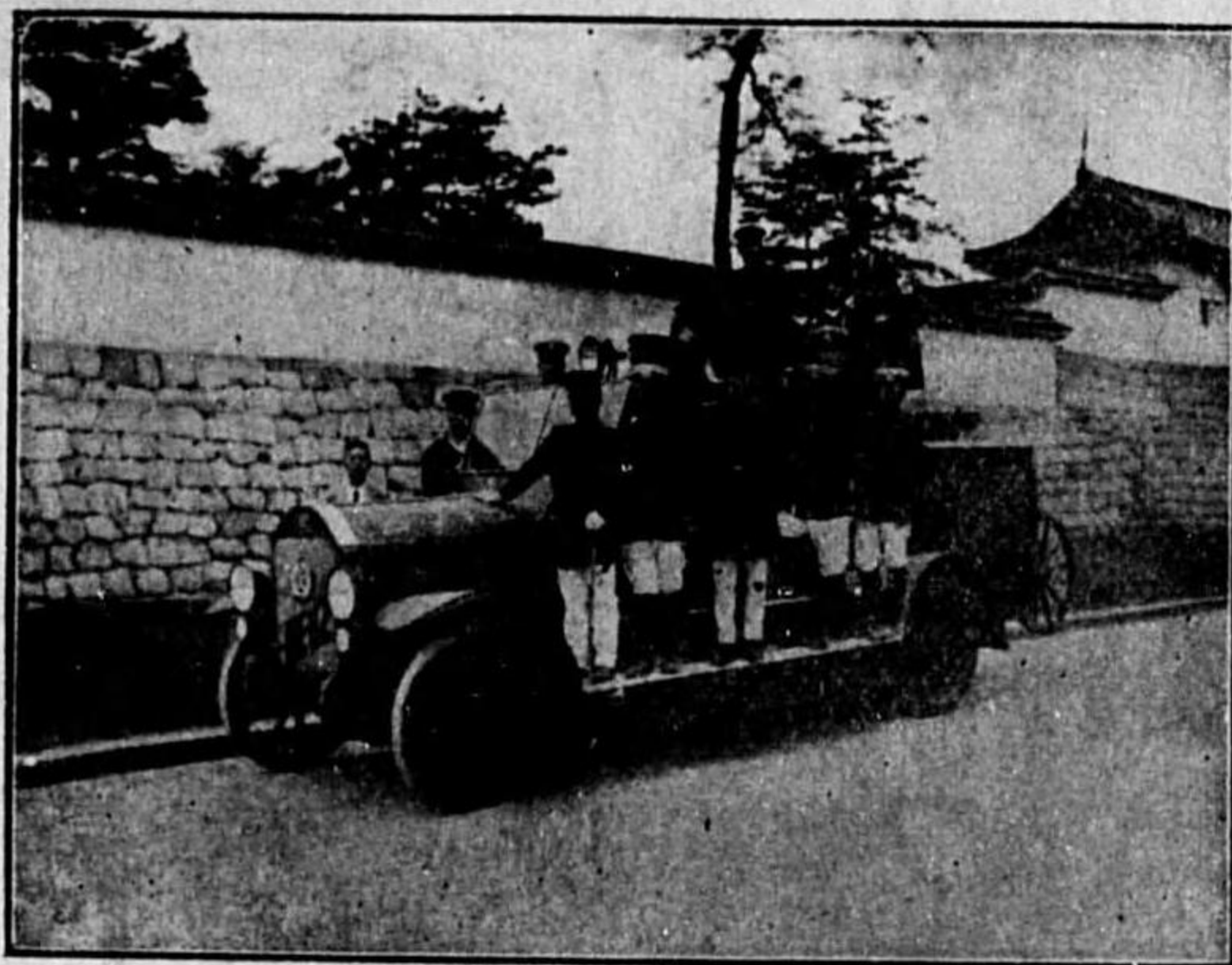
新井廣武商店

東京市京橋區南橋町十七番地  
電話 東京橋二〇一八番  
振替 東京六九四一九番

◇質精良 格價低廉 納品期正確 殊に制帽店の專門製作

於大國産記念東京博覽會  
第一等優良國産賞牌受領

森田式消防ポンプ



〔呈進グロタカ〕

京都皇宮御所御警備  
用の唧筒自動車

目科業營

專賣特許森田式ウエアレス唧筒  
森田式消防自動車唧筒  
獨逸ベントツ自働車東洋總代理店  
大正製麻株式會社ホース一手販賣店  
各種消防器具一式  
鹽井並水道敷設置請負

獨逸ベントツ會社東洋總代理店

株式會社 森田製作所

大阪市港區八雲町  
電話 西一長四一三三  
一長四一一九

東京營業所

日本橋區馬喰町二丁目  
電話 浪花一長二二七三  
二二七四

一手販賣店

三菱商事株式會社

機械部

專賣 大日本特許 第六五二八六號  
英國特許 第二六二二九二號  
佛國特許 第六一〇六四號  
獨國特許 第四六五三二〇號



麻帝  
布  
ホ  
ー  
ス

特許 九耳  
商標 筋入  
金 球 牌 印  
地 球 印

英國  
グ  
井  
ン  
ポ  
ン  
プ

我國に適せる  
最も理想的  
小型自動車

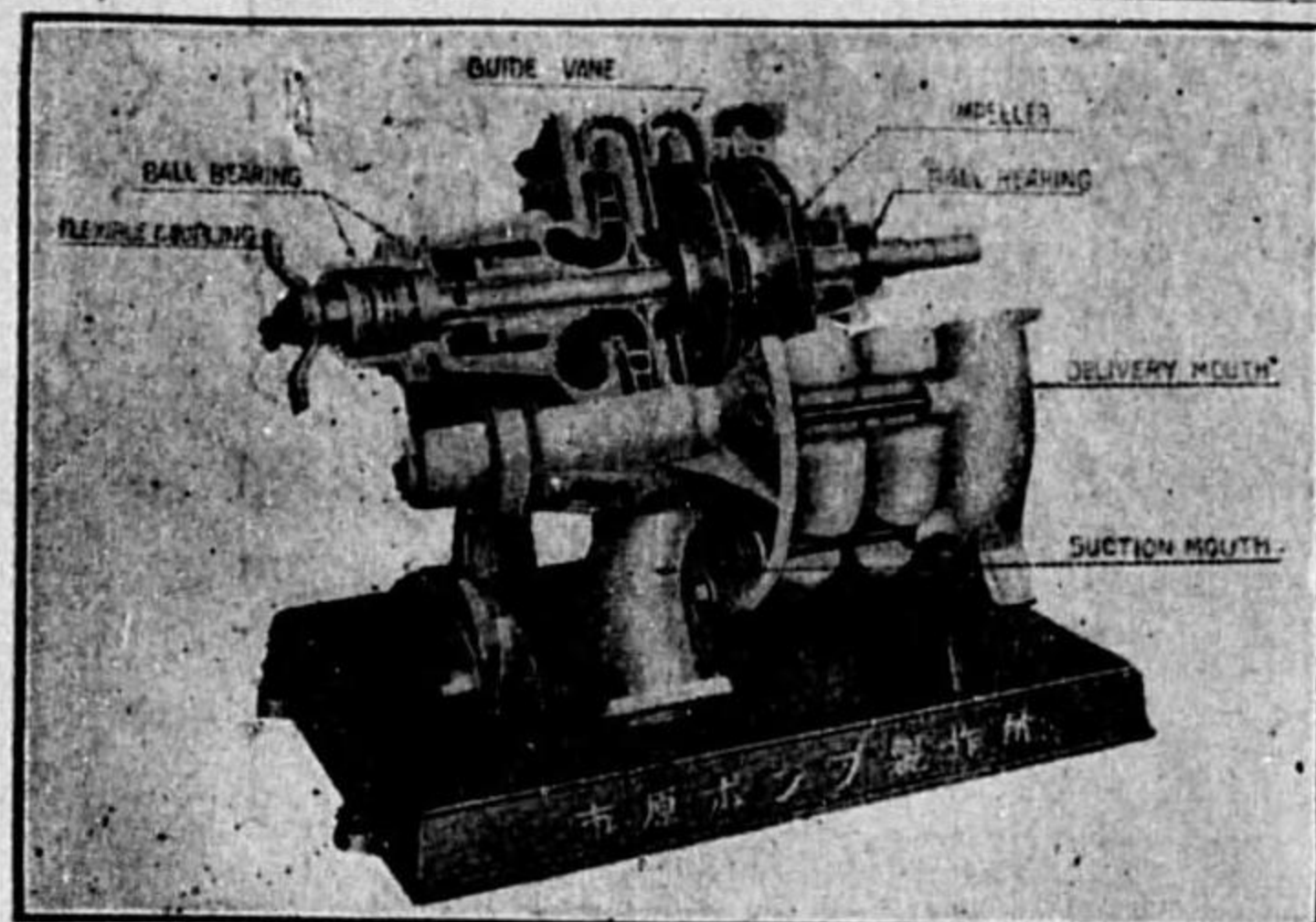


株式會社 赤尾保商店

大阪西區賣場南通六丁目  
電話新町四五八・四九五番

出張所

東京市神田區鍛冶町二五番地  
電話神田二四七番  
吳・門司・佐世保・舞鶴・橫須賀・京城



主義と理想

一番安心の出来るポンプ——良質持久  
一番使ひよい ポンプ——實用奉仕  
一番進歩した ポンプ——不斷改良

△イナハラポンプ

營業品目

消防用自動車ポンプ各種  
手びき、馬びき、据付け  
ガンリン、蒸氣、手押ポンプ  
消防艇、水管自動車、ハシゴ  
ホース、消火栓、消防用器具機械類



東京市日本橋區蠣殻町参丁目貳番地  
合名 市原唧筒諸機械製作所

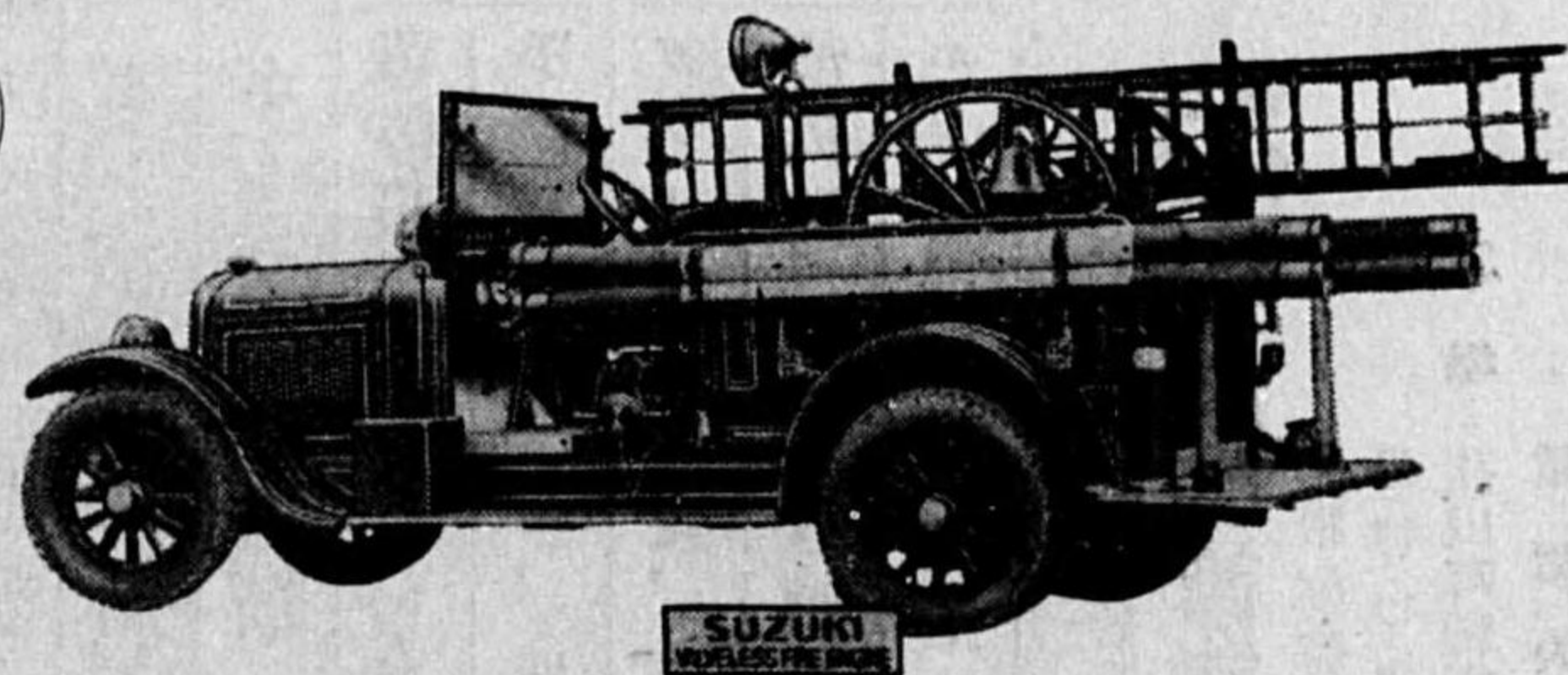
電話 隔能(07)九六〇番 七二七五番  
振替口座東京二四〇〇九番  
工場 蒲田町新宿デムラ(京濱國道沿)  
電話 穴森 二九五三番

長くも  
 明治大帝の御製に  
 波風の静なる  
 日も船人は  
 梶に心をゆるさ  
 ざらまし  
 人心の弛緩を戒め  
 日常の緊張を促さ  
 る、  
 御聖旨の程も俥ばれ  
 て今更ら感慨のいこ  
 深きものあり

御大典  
 の事業  
 記念と  
 して  
 防火設  
 備に各  
 地御注  
 文殺倒  
 の

筒唧スレブル式木鈴

PAT'D  
 No. 47950  
 No. 53011  
 No. 82172



町番二田本區西市阪大

所作製木鈴

番一五六九阪大警報  
 イトマカサオ語略電受  
 二三九三 西  
 五二〇三 川  
 八四四一 川  
 工場 } 話電

# 日本百都市の火災と消防設備

## 索引

(五十音配列)

索引

### ア

青森市	131
秋田市	139
明石市	67
旭川市	51
足利市	87

### イ

一宮市	99
今治市	173

### ウ

宇治山田市	94
宇都宮市	85
宇部市	161
宇和島市	175

### オ

大分市	193
大垣市	115

大阪市	26-30
大津市	111
大泊町	228
大牟田市	187
岡崎市	98
岡山市	149
小樽市	49
尾道市	155

### カ

鹿児島市	199
金澤市	141
川崎市	64

### キ

基隆市	219
岸和田市	61
岐阜市	113
京都市	20-25
桐生市	81

ク

釧路市	55
熊本市	195
久留米市	181
呉市	153

ケ

京城府	204
元山府	215

コ

高知市	177
甲府市	109
神戸市	40-43
郡山市	127
小倉市	185

サ

佐賀市	194
堺市	59
佐世保市	71
札幌市	44

シ

静岡市	101
-----	-----

清水市	107
-----	-----

下關市	159
首里市	203
仁川府	207

セ

仙臺市	121
-----	-----

タ

大邱府	209
臺中市	221
臺南市	223
臺北市	217
大連市	229
高雄市	224
高岡市	145
高崎市	79
高田市	76
高松市	167

ツ

津市	91
鶴岡市	137

ト

東京市	14-19
-----	-------

徳島市	165
鳥取市	147
戸畑市	191
富山市	143
豊橋市	96
豊原町	226

ナ

長岡市	74
長崎市	69
長野市	117
名古屋市	31-34
奈良市	89
那覇市	201

ニ

新潟市	72
-----	----

ヌ

沼津市	105
-----	-----

ハ

函館市	46
八王子市	57
濱松市	103

ヒ

姫路市	66
広島市	151

フ

福岡市	179
福島市	123
福島若松市	125
福山市	157
釜山市	211

ヘ

平壤府	213
-----	-----

マ

松本市	119
松山市	171
前橋市	77
丸亀市	169

ミ

水戸市	83
宮崎市	197

ム

室蘭市	53
-----	----



モ

	頁
門司市.....	183
盛岡市.....	129

ヤ

山形市.....	133
八幡市.....	189

ヨ

横須賀市.....	62
横濱市.....	35-39
四日市市.....	93
米澤市.....	135

ワ

若松市(福島).....	125
和歌山市.....	163

昭和三年十一月二十三日發行  
印刷

版權  
所有

發行所  
發賣所

(日本百都市の火災と消防設備)  
定價金壹圓五拾錢

著作兼  
發行者 東京市芝區愛宕町一丁目十五番地  
藤野至人  
印刷者 東京府瀧野川町西ヶ原七十四番地  
大島貞吉

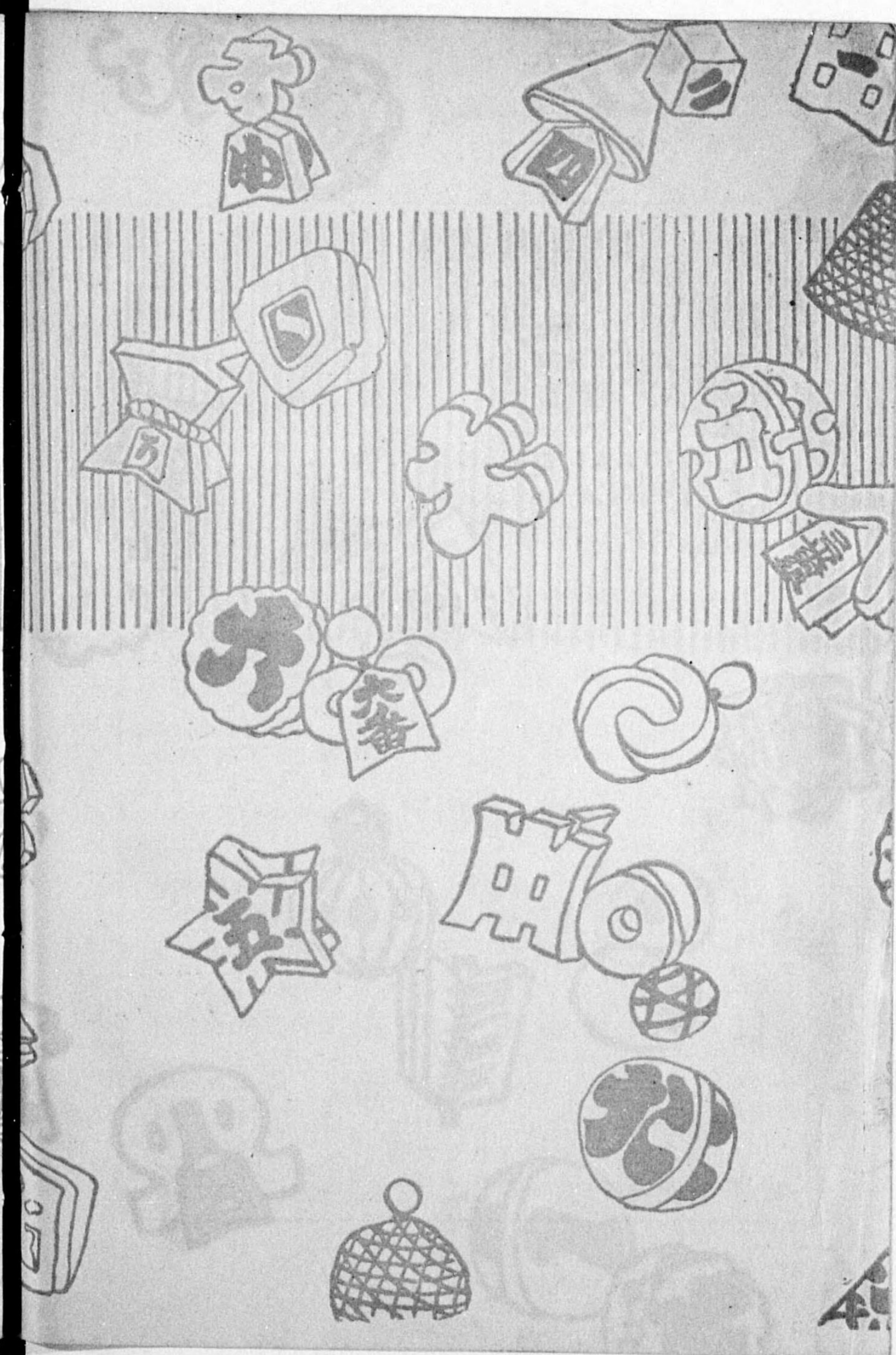
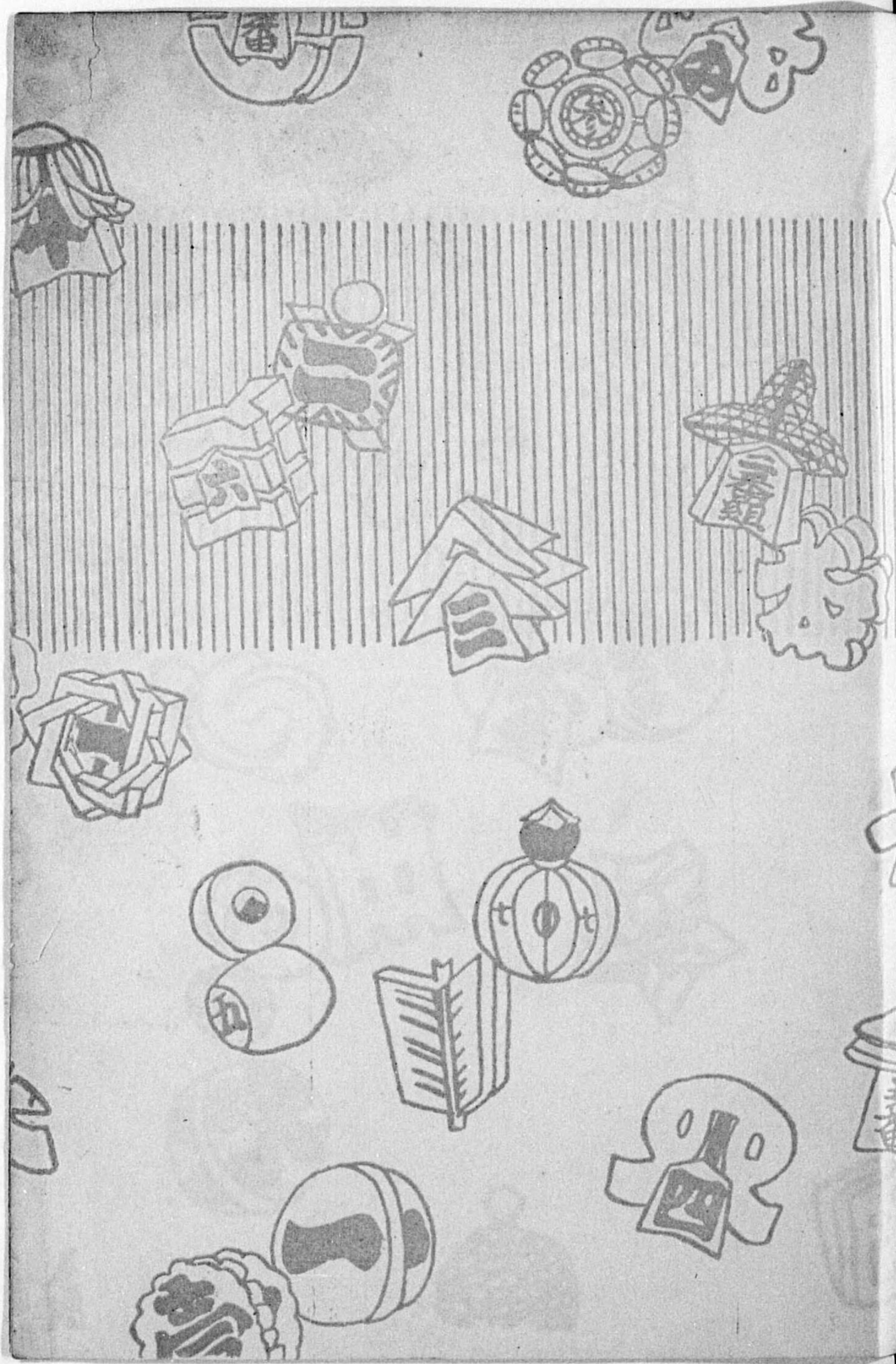
東京市芝區愛宕町一丁目十五番地  
大日本消防學會  
振替口座東京六六六〇六番  
東京市芝區愛宕町一丁目十五番地  
日本消防新聞社  
振替東京三三五八六番  
電話芝〇七三一番

## 火 防 消 防 參 考 書

<small>元警視廳機械課長技師</small> 葛西雄三郎氏著	<b>消防實用水力學</b> (三版)	定價 1.50 郵稅 .06
<small>警視廳技師</small> 江島喜衛氏著	<b>電氣瓦斯と火災</b> (三版)	定價 .70 郵稅 .04
<small>元警視廳技師</small> 尾形孝道氏著	<b>ガソリンポンプ取扱法</b> (四版)	定價 .70 郵稅 .04
<small>松井博士 座 緒方消防部長閣</small> 藤野至人氏著	<b>火防消防講話</b> (四版)	定價 1.50 郵稅 .08
<small>緒方消防部長閣</small> 藤野至人氏譯	<b>科學的火災防禦法</b> (再版)	定價 1.50 郵稅 0.6
<small>警視廳消防司令</small> 小泉壽之助氏著	<b>消防術數綱要</b> (三版)	定價 .70 郵稅 .04
<small>警視廳消防課長司令</small> 山川秀好氏著	<b>消 防 提 要</b> (再版)	定價 .70 郵稅 .04
大日本消防學會編	<b>腕用唧筒取扱法</b> (再版)	定價 .70 郵稅 .04
小宮山清三氏著	<b>農村消防の革新</b> (再版)	定價 .70 郵稅 .04
藤野至人氏著	<small>國民 當用</small> <b>火災防備と消火法</b> (六十四版)	定價 .20 郵稅 .02
小宮山清三氏著	<b>消防と團體禁酒</b> (三版)	定價 .20 郵稅 .02
<small>警視廳技師</small> 江島喜衛氏著	<b>電氣學大要</b> (新刊)	定價 .60 郵稅 .02

(圖書目錄進呈)

**發行所** 東京市芝區愛宕町一丁目  
 振替口座東京六六六〇六番 **大日本消防學會**



14.6  
54

終